

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年6月20日
【事業年度】	第52期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
【会社名】	株式会社ソフトクリエイイトホールディングス
【英訳名】	SOFTCREATE HOLDINGS CORP.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 林 勝
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区渋谷二丁目15番1号
【電話番号】	03-3486-0606(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 中桐 雅宏
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区渋谷二丁目15番1号
【電話番号】	03-3486-0606(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 中桐 雅宏
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (千円)	11,939,282	12,277,355	13,724,181	15,596,817	19,358,155
経常利益 (千円)	1,524,810	1,555,820	1,620,255	1,793,095	2,010,403
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	941,570	1,017,766	1,010,192	1,145,231	1,164,512
包括利益 (千円)	1,168,751	744,558	1,116,892	1,427,410	1,527,137
純資産額 (千円)	6,805,069	7,283,191	8,564,425	9,178,256	10,568,668
総資産額 (千円)	10,029,262	10,772,942	12,796,157	13,785,349	15,899,921
1株当たり純資産額 (円)	486.45	517.10	586.34	637.52	713.40
1株当たり当期純利益金額 (円)	69.78	75.26	73.99	85.48	88.08
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	66.53	72.68	70.98	82.68	85.11
自己資本比率 (%)	65.5	65.5	62.6	61.9	58.9
自己資本利益率 (%)	15.4	14.9	13.4	13.8	13.0
株価収益率 (倍)	13.3	10.8	17.3	17.0	18.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,418,396	1,274,208	1,717,646	1,559,070	1,444,687
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	796,631	733,516	1,585,222	221,259	1,808,969
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	242,898	278,118	322,479	828,499	32,942
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	3,538,644	5,268,251	5,673,686	6,177,836	5,862,154
従業員数 (名)	385	412	464	506	607
(外、臨時雇用者数)	(49)	(69)	(67)	(64)	(65)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高及び営業収益 (千円)	1,203,200	1,220,400	1,263,600	1,549,600	1,739,933
経常利益 (千円)	570,677	615,208	556,886	647,983	459,747
当期純利益 (千円)	472,846	583,869	834,742	623,451	465,282
資本金 (千円)	854,101	854,101	854,101	854,101	854,101
発行済株式総数 (株)	13,775,139	13,775,139	13,775,139	13,775,139	13,775,139
純資産額 (千円)	5,172,266	5,300,718	5,678,192	5,496,716	5,274,299
総資産額 (千円)	5,540,717	5,558,119	6,076,770	5,828,913	5,877,435
1株当たり純資産額 (円)	378.16	384.02	412.59	408.93	400.20
1株当たり配当額 (うち、1株当たり中間 配当額) (円)	20.00 (10.00)	20.00 (10.00)	20.00 (10.00)	20.00 (10.00)	20.00 (10.00)
1株当たり当期純利益 金額 (円)	35.04	43.17	61.14	46.53	35.19
潜在株式調整後1株当 り当期純利益金額 (円)	33.41	41.70	59.03	45.09	34.03
自己資本比率 (%)	92.2	94.3	92.8	93.8	89.4
自己資本利益率 (%)	9.7	11.3	15.3	11.2	8.7
株価収益率 (倍)	26.4	18.7	20.9	31.2	47.4
配当性向 (%)	57.1	46.3	32.7	43.0	56.8
従業員数 (外、臨時雇用者数) (名)	21 (3)	20 (4)	26 (-)	26 (-)	32 (-)
株主総利回り (%)	113.7	102.0	160.9	184.1	212.4
(比較指標：小型株) (%)	(124.9)	(121.7)	(143.6)	(177.4)	(157.2)
最高株価 (円)	1,001	999	1,430	1,926	1,930
最低株価 (円)	740	721	768	1,264	1,256

(注) 1 売上高及び営業収益には、消費税等は含まれておりません。

2 第50期以降の臨時雇用者数は、従業員数の100分の10未満であるため記載しておりません。

3 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

4 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当事業年度の期首から適用しており、前事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【沿革】

年月	概要
1969年 8月	神奈川県横浜市に、不動産業を営むため、資本金 3 百万円で白坂産業(有)を設立。
1976年11月	白坂産業(有)を白坂産業(株)へ組織替え。
1983年 5月	東京都渋谷区に、パソコンショップ「ソフトクリエイイト」渋谷店を開店(1998年10月閉鎖)し、事業転換を行う。
1985年 4月	受託開発系 S I サービス(現:システムインテグレーション事業 受託開発)を開始。
1985年11月	本社を東京都渋谷区へ移転。
1985年12月	白坂産業(株)から(株)ソフトクリエイイトに商号変更。
1986年 7月	(株)ソフトクリエイイト(旧社名:白坂ハウス(株) 1973年 9月に神奈川県座間市にて設立)を吸収合併。
1993年 4月	ネットワーク構築保守サービス(現:システムインテグレーション事業 ネットワーク構築)を開始。
1999年 1月	インターネット通販サイト「特価COM」を開設し、インターネット通信販売事業を開始。
1999年10月	当社独自開発のECサイト構築パッケージ「ec-shop」(現名:ecbeing)を販売し、プロダクト系 S I サービス(現:ECソリューション事業)を開始。
2002年 9月	100%子会社(株)エスシーを設立。
2003年 4月	当社開発ワークフロー「X-point」(現:システムインテグレーション事業 プロダクト)の販売開始。
2003年10月	100%子会社(株)エスシーを吸収合併。
2004年 3月	第三者割当増資により(株)オービックビジネスコンサルタントと資本提携。
2005年 4月	大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」(現:東京証券取引所 JASDAQスタンダード)に株式を上場。
2006年 1月	(株)オークネット、日本ビジネステレビジョン(株)と合併会社(株)アドバンスド コア テクノロジーを設立。
2006年12月	当社開発不正接続PC検知・排除システム「L2Blocker」(現:システムインテグレーション事業 プロダクト)の販売開始。
2007年 4月	会社分割により連結子会社(株)イトレッドを設立。
2007年 5月	(株)イトレッドの第三者割当増資により S C S K(株)(旧:住商情報システム(株))が資本参加。
2008年 1月	大阪府大阪市に関西支社(現:(株)ecbeing関西支社)を設置。
2008年 4月	当社開発オフィス資産の物品管理ソリューション「Assetment」(現:システムインテグレーション事業 プロダクト)の販売開始。
2008年12月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場。
2009年 4月	インターネット通信販売事業「特価COM」を事業譲渡。
2011年 3月	東京証券取引所市場第一部指定。
2011年12月	(株)アクロホールディングス(旧:(株)アクロネット)を持分法適用関連会社化。
2012年10月	純粋持株会社体制へ移行し、(株)ソフトクリエイイトから(株)ソフトクリエイイトホールディングスに商号変更。 会社分割により、ECソリューション事業を100%子会社(株)ecbeingへ、システムインテグレーション事業及び物品販売事業を100%子会社(株)ソフトクリエイイトに承継。
2013年 5月	第三者割当増資により日本ユニシス(株)と業務・資本提携。
2016年12月	当社連結子会社の(株)イトレッドが東京証券取引所マザーズ市場に株式を上場。
2018年 4月	(株)エートウジェイを子会社化。
2018年10月	エクスジェンネットワークス(株)を持分法適用関連会社化。
2019年 3月	当社連結子会社の(株)イトレッドが東京証券取引所市場第一部へ上場市場変更。

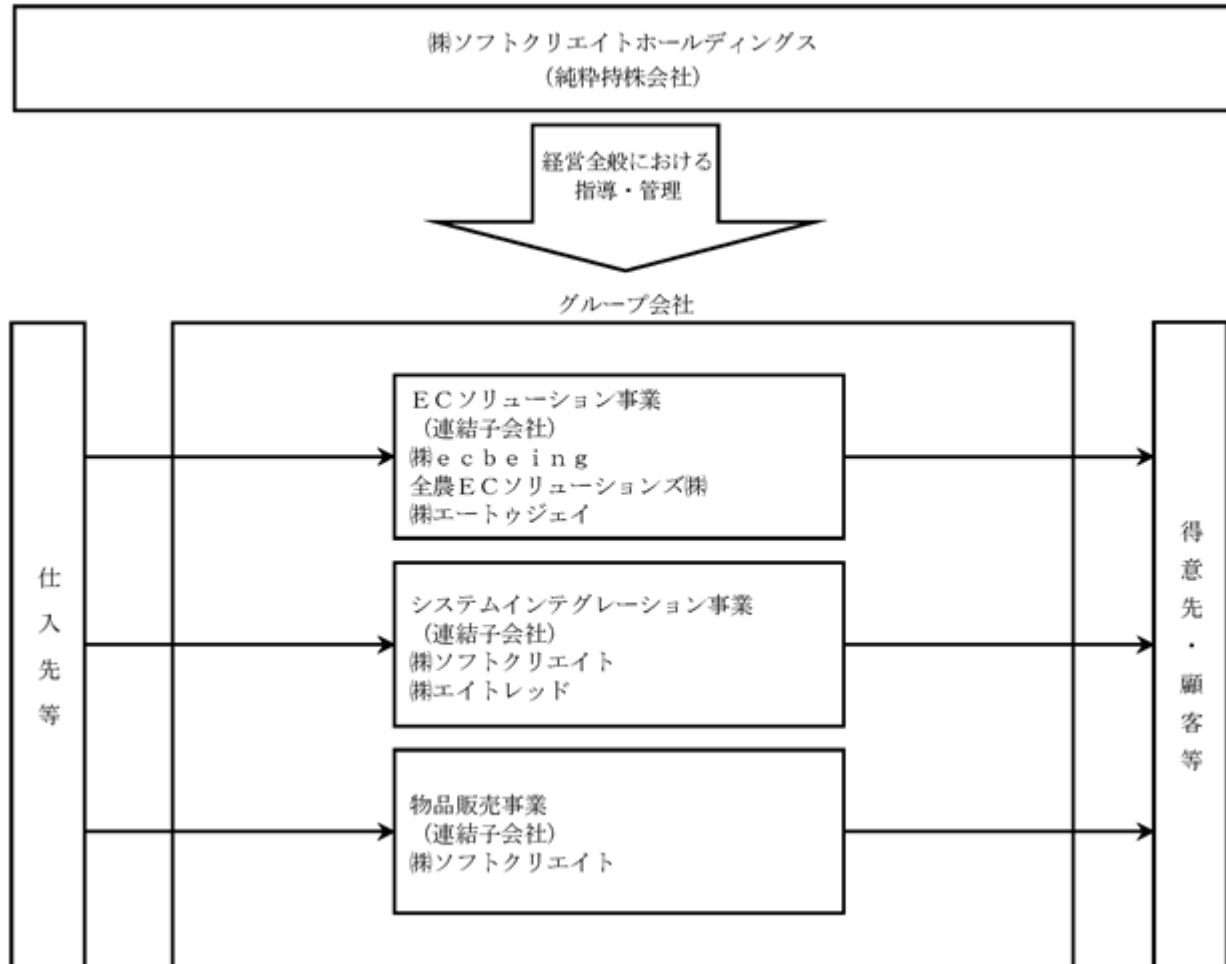
3【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社5社及び持分法適用関連会社4社で構成され、ECソリューション事業、システムインテグレーション事業及び物品販売事業を営んでおります。

なお、当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当しており、これにより、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。

事業系統図及び事業内容は次のとおりであります。

(事業系統図)



(注)全農ECソリューションズ株式会社は2018年6月8日付けで株式会社ふるさとサポートから商号を変更しております。

(1) ECソリューション事業

ECソリューション事業は、ECサイト構築パッケージ「ecbeing」の販売、カスタマイズ及びデータセンターでのホスティングサービスの提供に加えて、プロモーション等の付加価値サービスを提供し、トータル的なECソリューションを提供しております。

(主な関係会社)株式会社ecbeing、全農ECソリューションズ株式会社、株式会社エートゥジェイ、アクロホールディングス及びスリーワンシステムズ株式会社

(2) システムインテグレーション事業

システムインテグレーション事業は、当社グループが開発した3つのソフトウェアプロダクト(「X-point」、「AgileWorks」、「L2Blocker」)の販売、ネットワーク構築、クラウドサービスを提供しております。

(主な関係会社)株式会社ソフトクリエイト、株式会社エイトレッド、株式会社Y2S及びエクスジェンネットワークス株式会社

(3) 物品販売事業

物品販売事業は、法人顧客向けにパソコン及びサーバー等のIT機器の販売、市販パッケージソフトウェアを提供しております。

(主な関係会社)株式会社ソフトクリエイト

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金(千円)	主要な事業の内容(注)1	議決権の所有割合又は被所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社 ec being (注)2.4.5	東京都渋谷区	200,000	ECソリューション事業	100.0	業務受託取引 役員の兼任3名
株式会社ソフトクリエイト (注)2.4.6	東京都渋谷区	200,000	システムインテグレーション事業 物品販売事業	100.0	業務受託取引 役員の兼任2名
株式会社エイトレッド (注)2.4	東京都渋谷区	618,000	システムインテグレーション事業	51.59	役員の兼任1名
全農ECソリューションズ株式会社 (注)3.4	東京都渋谷区	20,000	ECソリューション事業	51.0 (51.0)	役員の兼任1名
株式会社エートウジエイ (注)4	東京都港区	75,937	ECソリューション事業	79.3	資金の貸付 役員の兼任2名
(持分法適用関連会社) 株式会社アクロホールディングス (注)4	東京都中央区	281,000	ECソリューション事業	22.41	-
スリーワンシステムズ株式会社 (注)4	東京都中央区	15,000	ECソリューション事業	20.0	-
株式会社Y2S (注)3.4	東京都港区	30,000	システムインテグレーション事業	20.0 (20.0)	-
エクスジェンネットワークス株式会社 (注)3.4	東京都千代田区	59,700	システムインテグレーション事業	48.15 (48.15)	-

(注)1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 特定子会社であります。

3 議決権の所有割引の()内は間接所有割合の内訳であります。

4 株式会社エイトレッドは、有価証券報告書を提出しております。なお、株式会社エイトレッド以外の上記連結子会社及び持分法適用関連会社は、有価証券届出書及び有価証券報告書を提出していません。

5 株式会社 ec being については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	7,828,065千円
	(2) 経常利益	1,019,211千円
	(3) 当期純利益	703,414千円
	(4) 純資産額	3,280,424千円
	(5) 総資産額	5,068,038千円

6 株式会社ソフトクリエイトについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	9,910,289千円
	(2) 経常利益	540,895千円
	(3) 当期純利益	405,244千円
	(4) 純資産額	1,794,610千円
	(5) 総資産額	3,955,171千円

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)	
ECソリューション事業	287	(38)
システムインテグレーション事業	215	(27)
物品販売事業	73	(-)
全社共通	32	(-)
合計	607	(65)

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
- 2 臨時従業員数(派遣社員、パートタイマー)は、()内に当連結会計年度末人員を外数で記載してあります。
- 3 全社共通は、管理部門の従業員であります。
- 4 従業員数が前事業年度末に比べ101人増加したのは、主に新卒採用を大幅に増加したこと及び株式会社エートゥージェイの新規連結によるものであります。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
全社共通	32 (-)	37.8	5.7	5,862

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
- 2 臨時従業員数(派遣社員、パートタイマー)は、()内に当事業年度末人員を外数で記載してあります。
- 3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んであります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりません。なお、労使関係は円満な関係にあり、特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針・基本理念

企業ミッション

中堅企業並びに大手企業内部部門に、最適なITソリューション・サービスを、営業・技術が一体となって提供し、顧客企業の成長と社会の発展に寄与する。

顧客企業にとって単なる「業者」ではなく、「ベストパートナー」であることを目指す。

『ベストパートナーソリューションプロバイダ』

コーポレートスローガン

『Speed & Change』

変化する時代への対応力と失敗を恐れないチャレンジスピリットのもと、常に時代の一步先をゆく事業展開を目指す。

経営指針

- A 実利主義経営
- B 環境変化への素早い対応
- C 実績・実力主義

行動憲章

- A 誠実・公正な企業活動
- B 従業員・人権の尊重
- C 社会・環境との調和

上記の経営方針・基本理念のもと、法令・諸規則の遵守はもとより適正な企業行動を重視することを何よりも優先し企業価値の最大化を図ってまいります。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、経営ビジョンとして「Webソリューション・サービスを基盤とした高収益会社」の実現を掲げております。当社グループは、業態転換を行ってきた過程の中で、成長途上の段階にあると認識しており、経常利益及び利益成長率を重要な経営指標として、継続的な事業拡大を通じて企業価値の向上及び社会貢献に努めてまいります。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、EC市場の継続的な変化・拡大を背景として、ECサイト構築パッケージ「ecbeing」を主力としたECソリューション・サービスを戦略的事業分野として位置付け、事業を拡大してまいりました。今後は、ECサイト構築パッケージを活用したECソリューションビジネスを中核とした事業拡大を推進し、より収益性の高い事業基盤を確立し、たとえ厳しい経済環境下においても永続して安定的に発展し続ける優良企業を目指しております。

(4) 対処すべき課題

当社グループの属するIT業界は、EC市場の拡大を背景としたECサイト構築需要が拡大していることや、企業の相次ぐ情報漏えい事件の影響によりセキュリティへのIT投資意欲が高まっております。また、クラウドサービス市場の拡大を背景としたクラウドサービス需要の急激な拡大やIT技術者の人材不足が深刻化するなど、IT業界を取り巻く環境は大きく変化しており、この環境変化に対して、より迅速かつ柔軟に対応していくことが求められています。

そのため、当社グループが更なる成長を目指すためには、ECソリューション事業及びシステムインテグレーション事業の拡大を図ることが急務であり、人材の確保・育成、販売体制の強化及び知名度の向上に加え、製品機能の強化の充実が課題となっております。

このような状況を踏まえ、次のような課題を掲げて計画的かつ迅速に取り組んでまいります。

人材の確保・育成

当社グループは、主力製品であるECサイト構築パッケージ「ecbeing」を活用したECソリューション事業の拡大及び企業の相次ぐ情報漏えい事件の影響によるセキュリティへのIT投資意欲の高まりを受けて、セキュリティビジネスの拡大や、当社独自のサービスである「SCクラウド」のクラウドビジネスの拡大などにより成長を遂げておりますが、IT技術の進歩に伴い顧客の要求も高くなり開発案件の難易度は高くなっております。また、IT技術者の人材不足が深刻化しております。今後も更に市場拡大が見込まれる中で、成長を果たしていくためには、IT技術者の人材確保や、顧客の様々な要望に応えられる開発スキル向上のための人材育成が重要であると認識しております。

そのため、積極的な人材採用の実施により人材確保に努めると同時に、能力を向上させるための研修の実施と評価制度の充実により、社員の能力を最大限に発揮させる仕組みを確立してまいります。

販売体制の強化及び知名度の向上

当社グループは、ECサイト構築需要の拡大により主力製品であるECサイト構築パッケージ「ecbeing」を活用したECソリューション事業の拡大により成長を遂げております。また、企業の相次ぐ情報漏えい事件の影響によるセキュリティへのIT投資意欲の高まりを受けて、セキュリティビジネスの拡大や、当社独自のサービスである「SCクラウド」のクラウドビジネスの拡大などにより成長を遂げております。

今後も更に市場拡大が見込まれる中で、成長を果たしていくためには、販売体制の強化及び知名度の向上が重要であると認識しております。

そのため、セキュリティビジネスやクラウドビジネスの拡大のための重点顧客戦略の推進により、販売体制の強化を図ると同時に、展示会またはセミナー等を通じて、知名度の向上を図ってまいります。

ソフトウェアの製品機能の強化

当社グループが独自で開発したECサイト構築パッケージ「ecbeing」、ワークフロー「X-point」「AgileWorks」「ATLED Work Platform」、不正接続PC検知・排除システム「L2Blocker」の製品が、今後も継続的な成長を果たしていくためには、市場での優位性を高めるための製品機能の強化が不可欠であると認識しております。

そのため、時代の急激に変化する市場とテクノロジーの進歩に素早く対応できるための更なる製品機能の強化やオプション機能の開発等の実施により、製品機能を充実させ、競合他社との差別化を図ってまいります。

2【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財政状態等に影響を及ぼす可能性のある代表的なリスクには、次のようなものが考えられます。これらの項目は、リスクの代表的なものであり、実際に起こりうるリスクは、これらに限定されるものではありません。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

1 当社グループの事業について

(1) 業界の動向について

ソフト系IT業界の動向について

当社グループのECソリューション事業及びシステムインテグレーション事業は、主としてソフトウェアプロダクトの販売、システムの開発やネットワークの構築等の役務提供により成り立っております。これらの事業区分が属する業界はソフト系IT業界（ソフトウェア業、情報処理サービス業、インターネット関連サービス業の総称。国土交通省の定義による。）であり、当該業界はIT関連サービスの需要動向に左右されると考えられます。ソフト系IT市場の動向は経済環境の影響を受けやすいため、今後の経済情勢が悪化した場合には、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

ソフトウェアプロダクトを取り巻く市場環境について

当社グループのECソリューション事業において主力製品であるECサイト構築パッケージ「ecbeing」の成長は、今後のEC市場の動向あるいは各企業における志向性の高まりが鍵を握るものと思われま

す。ECはBtoB（企業間取引）とBtoC（対消費者取引）に大別されます。

わが国におけるBtoB市場は、全体取引額自体が大きく伸長していることに加え、大手企業が自社のシステムをグループ傘下の中堅・中小企業に展開するなど、これまでECが浸透していなかった層にまで裾野が広がり、順調に成長しております。

また、BtoC市場についても、消費者の裾野の広がりに伴い、食料品の繰り返し購買や実店舗でも普通に購入可能な日用生活雑貨等が購入される傾向が増加するなど、ECが生活に欠かせないものとして普及・拡大しつつあります。

なお、現在のところ、EC市場の成長を阻害する社会構造及び業界環境の変化はないと考えられますが、EC市場の成長が止まるあるいは縮小するような場合には、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

パソコン、サーバー等のハードウェア及びパソコン向けパッケージソフトウェアに係る市場の動向について

パソコン、サーバー等のハードウェア及びパッケージソフトウェアは、情報通信社会の発達・成熟とともに必要不可欠なものとなっているものの、これらは企業収益により情報化投資意欲が大きく左右されることから、今後経済情勢が悪化した場合には、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 収益構造の変化に伴うリスクについて

当社グループは、ECソリューション事業を成長ビジネスとして位置づけ、収益構造の構築を進めております。

しかしながら、今後、ソフト系IT市場及びEC市場等が、当社グループが想定する程には成長せず、結果としてECソリューション事業の成長が阻害された場合には、利益率の低下を招き、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(3) 業績の季節偏重について

当社グループは、ECソリューション事業及びシステムインテグレーション事業において、システムのカスタマイズまたは構築を行っております。これらのシステム開発業務は、顧客都合により、9月及び3月に顧客の検収が集中する傾向があります。このため、何らかの要因により検収遅延が生じた場合には、当社グループの売上計上時期が翌期にずれ込むことにより、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(4) 開発プロジェクトについて

当社グループが行うシステム開発業務は、プロジェクトごとに作業工数や費用の見積り及び管理を行っておりますが、作業進捗の遅延や想定外の費用負担により採算性の悪化または不採算となる可能性があります。

また、顧客の検収後のシステムに予期し得ない不具合が生じた場合には、それに起因する損害賠償請求を受ける可能性や、当社グループの信頼性が低下する可能性があり、そのような場合には当社グループの事業展開及び業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(5) 人材の育成・確保について

当社グループが、ECサイト構築パッケージ「ecbeing」及びソフトウェアプロダクト（「X-point」「AgileWorks」「L2Blocker」）の販売・開発体制の強化を図り継続的な成長を果すためには、人材の確保・育成が重要な課題であるものと認識しております。当社グループは、戦力増強を図るため、新卒の定期採用及び中途採用を継続的に行い人材確保に努めておりますが、想定どおりの人材確保が進まない場合や、人材の社外流出が発生した場合には、当社グループの事業展開に悪影響を及ぼす可能性があります。

(6) 競合について

当社グループの主力製品であるECサイト構築パッケージ「ecbeing」において、現在のところ、同種のECサイト構築パッケージソフトウェアは、当社グループが認識する限りにおいて数タイトル存在し、それらのソフトウェアメーカーは当社グループの競合者と言えますが、当該競合者の製品に「ecbeing」の販売が脅かされている状況にはないものと認識しております。また、大手ソフトウェアメーカーなどが新たな競合製品の販売を開始した事実もありません。

しかしながら、「ecbeing」はパッケージソフトウェアであることから、常なる陳腐化リスクに晒されていることに鑑み、今後もECサイト構築市場における優位性を維持し、更なる競争力の強化を図るため、製品機能強化に努めております。

もっとも、今後においてEC市場が更なる成長を遂げた場合、または企業の志向性が更に高まった場合には、大手ソフトウェアメーカーなどが新たにECサイト構築パッケージ分野に参入しない保証はなく、このような事態が起きた場合には、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(7) インターネットの障害等について

当社グループは、ECサイト構築パッケージ「ecbeing」のホスティングサービス及び当社独自のサービスである「SCクラウド」のクラウドビジネスなどを行うにあたり、インターネットに特有の技術的または社会的なリスク要因を想定し、インターネットサーバーに係る万一の障害や事故に備えたりリアルタイムのバックアップ体制をはじめ、不正アクセスやコンピュータウイルスを防御するネットワークセキュリティ等、必要な管理体制を整えております。今後も引き続きネットワークセキュリティと情報管理に係る強化を継続する予定であります。

しかしながら、基幹システム及びネットワークの障害等を完全に予防または回避することは困難であり、このような事態が起きた場合には、当社グループの事業展開に悪影響を及ぼす可能性があります。

(8) 自然災害等について

地震、火災及びその他の自然災害や停電等が発生した場合には、事業所及びシステムが被害を受ける可能性があります。その結果、その対応に巨額の費用を要したり販売等事業活動に大きな影響が生じるため、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

2 法的規制等について

許認可について

当社グループは、ECソリューション事業及びシステムインテグレーション事業について従業員を顧客企業に派遣する場合があることから、「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律」に基づき、特定労働者派遣事業に係る届出を厚生労働大臣に提出しております。また、当社グループは派遣元事業主として、派遣労働者等の福祉増進のための措置、派遣契約の内容等、派遣先における就業条件の明示等の措置を講じております。

しかしながら、今後、当該法令が改正される、または新たな法的規制が設けられる場合には、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

なお、当社グループは今後も特定労働者派遣のみを行う予定であり、一般労働者派遣及び紹介予定派遣を行う予定はありません。

3 当社グループの経営について

(1) 投資に関するリスクについて

事業投資について

当社グループは、現在の事業ドメインと全く方向性が異なる新規事業分野への進出及び多角化は計画しておりませんが、今後も主にソフトウェアプロダクトの開発及び販売に係る有力企業への資本参加を伴う業務提携や有望な技術、ノウハウまたは販売チャネルを有する企業の買収などを行う可能性があります。

当社グループは、このような資本参加を伴う業務提携または買収にあたり、慎重に判断する方針であります。これらの判断時点における当社グループの見込み通りに計画が実現する保証はなく、当社グループが負担する費用を回収できない可能性があります。

有価証券の投資について

当社グループは、取引先との関係維持や効率的な資金運用を目的として、株式等の有価証券を保有しております。これらの有価証券には、市場価格がある上場株式や株価の算定が困難な非上場株式等があります。当社グループでは、時価または実質価額が著しく下落し、かつ回復の可能性が認められないと判断した場合には減損処理を行っており、将来の市況または投資先の業績不振等により、取得原価に比べて著しく価値が下落した場合は評価損の計上が必要となり、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 知的財産権等の侵害に係るリスクについて

ソフトウェア開発、システム開発受託等に関連した特許権等の知的財産権について第三者との間で訴訟及びクレームが発生した事実はありません。また、当社グループは事業推進にあたり弁理士事務所及び日本IT特許組合を通じた特許調査を実施しており、ソフトウェア開発に使用する技術が他社の特許権等に抵触しているという事実を認識しておりません。

しかしながら、わが国において、知的財産権の侵害の有無に係る確認の範囲は自ずと限定されるため、知的財産権の侵害に係る問題を完全に回避することは困難であります。万が一、他人から知的財産権を侵害しているとの指摘が行われた場合、当社グループは紛争解決までに多大な時間及び金銭コストを負担しなければならない恐れがあり、その場合には当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(3) 個人情報等の管理について

当社グループは、顧客、役員及び従業員の個人情報をも含めた重要な業務管理情報についてID及びパスワードによって管理するとともに、インターネットを通じた外部からのアクセスによる情報流出の防止策を採用しております。また、情報セキュリティマネジメントシステムの「ISO/IEC 27001:2013」及び「JIS Q 27001:2014」に基づいた認証を取得しており、継続・更新の審査を受けております。

しかしながら、このようなマネジメントシステムを有していても、個人情報を含むそれらの重要情報に係る社外漏洩を完全に防止できず、当該情報漏洩に起因して第三者に何らかの損害が発生した場合には、当社グループが損害賠償請求の対象となる可能性があります。また、当社グループの情報管理体制に係る良くない風評が発生し、当社グループの事業活動に悪影響を及ぼす可能性があります。

(4) 業務管理情報システムに係るリスクについて

当社グループは、業務管理情報システムにより、顧客情報の管理、労働債務の管理、給与の支払、顧客に対する売掛代金等の請求、与信管理等の業務を行っており、当社グループの業務効率は当該システムに大きく依存しております。

このため、当該システムが稼働しているサーバーが、不測の事態（地震等の災害に伴う停電、故障等）により、バックアップサーバーを含め同時に停止した場合には、当社グループの業務の遂行に支障をきたし、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

経営成績等の概要

(1) 経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、米中間の貿易摩擦の影響や中国経済の景気減速等による海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響等の懸念により、先行きは依然として不透明感はあるものの、企業収益や雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあり、穏やかな回復基調が続いています。

当社グループが属するIT業界は、EC市場及びインターネット広告市場の拡大を背景としたネット通販サイトの構築需要やインターネット広告需要が拡大しております。また、企業の相次ぐ情報漏えい事件の影響によりセキュリティへのIT投資意欲の高まりやクラウドサービス市場の拡大を背景としたクラウドサービス需要が拡大するなど、企業のIT投資は順調に推移いたしました。

このような状況の中で、当社グループはECサイト構築パッケージ「ecbeing」を活用したECソリューション事業の業績拡大に注力したことに加え、セキュリティビジネスや当社独自のサービスである「SCクラウド」の拡大に注力してまいりました。

これらの結果、売上高は193億58百万円（前期比24.1%増）、営業利益は18億87百万円（同10.6%増）、経常利益は20億10百万円（同12.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は11億64百万円（同1.7%増）となりました。

当連結会計年度におけるセグメントの経営成績の概要は、次のとおりであります。

ECソリューション事業

ECサイト構築パッケージ「ecbeing」の販売、カスタマイズ及びデータセンターでのホスティングサービスの提供に加えて、プロモーション等の付加価値サービスを提供し、トータル的なECソリューションを提供しております。

ECソリューション事業は、インターネット広告売上高、ECサイト構築パッケージ「ecbeing」の販売、保守及びホスティング売上高が伸長したことにより、売上高は88億50百万円（前期比22.8%増）、セグメント利益（経常利益）は16億17百万円（同1.5%減）となりました。

システムインテグレーション事業

当社グループが開発した3つのソフトウェアプロダクト（「X-point」、「AgileWorks」、「L2Blocker」）の販売、ネットワーク構築を提供しております。

システムインテグレーション事業は、ワークフロー「X-point」のプロダクト売上高が伸長しました。また、ネットワーク構築売上高及び当社独自のサービスである「SCクラウド」のクラウドサービス売上高の伸長により、売上高は52億90百万円（前期比30.8%増）、セグメント利益（経常利益）は15億56百万円（同63.8%増）となりました。

物品販売事業

法人顧客向けにパソコン及びサーバー等のIT機器の販売、市販パッケージソフトウェアを提供しております。

物品販売事業は、パソコンの販売が増加したこと等により、売上高は52億16百万円（前期比20.0%増）、セグメント利益（経常利益）は43百万円（同50.0%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して3億15百万円減少し、58億62百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、14億44百万円（前期は15億59百万円の獲得）となりました。これは、主に法人税等の支払が5億66百万円あったものの、税金等調整前当期純利益が20億9百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、18億8百万円（前期は2億21百万円の使用）となりました。これは、主に有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入が3億9百万円あったものの、投資有価証券の取得による支出が8億87百万円、有形・無形固定資産の取得による支出が3億99百万円、連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が6億5百万円あったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、32百万円（前期は8億28百万円の使用）となりました。これは、連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入が1億円、非支配株主からの払込による収入が6億72百万円あったものの、自己株式の取得による支出が5億48百万円、配当金の支払が2億65百万円あったこと等によるものであります。

(3) 生産、受注及び販売の実績

当社グループの生産・販売品目は広範囲かつ多種多様であり、同種の製品であっても、その容量、構造、形式等は必ずしも一様ではなく、また受注生産形態をとらない製品もあるため、セグメントごとに生産規模、受注規模を金額あるいは数量で示すことはしていません。

販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
	販売高(千円)	前期比(%)
ECソリューション事業	8,850,465	122.8
システムインテグレーション事業	5,290,981	130.8
物品販売事業	5,216,708	120.0
合計	19,358,155	124.1

(注) 1 セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は、次のとおりであります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づいて作成されております。この連結財務諸表の作成には、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループが連結財務諸表の作成に際して採用している重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載しておりますが、特に次の重要な会計方針が、連結財務諸表作成における重要な見積りの判断に大きな影響を及ぼすものと考えております。

1 貸倒引当金の計上基準

当社グループは、売上債権等の貸倒損失に備えて回収不能となる見積額を貸倒引当金として計上しておりますが、将来顧客の財務状況が悪化し、支払能力が低下した場合、追加引当または貸倒損失が発生する可能性があります。

2 有価証券の減損処理

当社グループは、取引先との関係維持や効率的な資金運用を目的として、株式等の有価証券を保有しております。これらの有価証券は、市場価格がある上場株式や株価の算定が困難な非上場株式等があります。当社グループでは、時価または実質価額が著しく下落し、かつ回復の可能性が認められないと判断した場合には減損処理を行っており、将来の市況または投資先の業績不振等により、取得原価に比べて著しく価値が下落した場合は減損処理が必要となる可能性があります。

3 固定資産の減損

当社グループでは、固定資産の減損に係る会計基準を適用しております。現時点では減損処理の必要な固定資産はございませんが、将来の事業環境の変化、業績の動向等により減損の兆候が生じた場合には、減損処理の計上が必要となる可能性があります。

4 繰延税金資産の回収可能性の評価

当社グループは、繰延税金資産の回収可能性の評価に際して、将来の課税所得を合理的に見積もっております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存しますので、その見積額が減少した場合、繰延税金資産は減額され税金費用が計上される可能性があります。

5 のれんの減損

当社グループは、のれんについて、その効果の発現する期間を見積り、その期間で均等償却しております。また、その資産性について子会社の業績や事業計画等を基に検討しており、将来において当初想定した収益が見込めなくなり、減損の必要性を認識した場合には、当該連結会計年度においてのれんの減損処理を行う可能性があります。

当連結会計年度の財政状態、経営成績の分析

1 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ3.7%増加し、101億17百万円となりました。これは、主に有価証券が9億82百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が5億18百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ43.5%増加し、57億82百万円となりました。これは、主に投資有価証券が11億6百万円、のれんが5億42百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて15.3%増加し、158億99百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ6.8%増加し、37億58百万円となりました。これは、主に未払い法人税等が2億25百万円増加したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ44.5%増加し、15億73百万円となりました。これは、主に繰延税金負債が1億7百万円、役員退職慰労引当金が2億5百万円、退職給付に係る負債が1億71百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ15.7%増加し、53億31百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ15.1%増加し、105億68百万円となりました。これは、主に利益剰余金が8億22百万円、非支配株主持分が5億59百万円増加したこと等によるものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

2 経営成績の分析

経営成績の分析については、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績」に記載してあるとおりであります。

経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等、2 事業等のリスク」に記載してあるとおりであります。

経営戦略の現状と見通し

経営戦略の現状と見通しについては、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載してあるとおりであります。

資本の財源及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度のキャッシュ・フローの分析につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載してあるとおりであります。

当社グループは、事業運営上必要な資金を確保するとともに、経済環境の急激な変化に耐えうる流動性を維持する事を基本方針としております。

資金調達については、運転資金、設備資金及び業務・資本提携に伴う所要資金等で、手元資金を上回る資金ニーズが生じた場合、用途、金額、期間、コスト等を総合的に勘案して調達方法(銀行借入(短期・長期)、社債発行、公募増資)を決定する方針であります。

なお、営業活動により多くのキャッシュ・フローを得ており、現在及び将来にわたって必要な運転資金及び設備投資等については、当面の間は自己資金で賄っていく予定であります。また、当事業年度末における借入金及びリース債務を含む有利子負債はなく、現金及び現金同等物の残高は58億62百万円となっております。

経営者の問題認識と今後の方針について

経営者の問題認識と今後の方針については、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載してあるとおりであります。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

当社グループでは、パッケージソフト・ソフトウェアプロダクトの基盤技術の更なる向上を目的として、研究開発活動を行っております。

当連結会計年度は、ECソリューション事業において31,307千円、システムインテグレーション事業において52,659千円の研究開発を行いました。

この結果、当連結会計年度の研究開発費の総額は、83,967千円であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度に実施いたしました設備投資の総額は、364百万円であります。その主なものは、ECサイト構築パッケージ「ecbeing」、ワークフロー「X-point」、「AgileWorks」、「ATLED Work Platform」の製品機能強化を図ったことに伴うソフトウェア投資による増加であります。

(1) ECソリューション事業

「ecbeing」のソフトウェア機能強化等に165百万円投資し、EC事業全体としては、207百万円の投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

(2) システムインテグレーション事業

「X-point」「AgileWorks」のソフトウェア機能強化等に143百万円投資し、システムインテグレーション事業全体としては、162百万円の投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

(3) 物品販売事業

記載すべき重要な事項はありません。

(4) 全社共通

記載すべき重要な事項はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
			建物	工具、器具 及び備品	ソフトウエ ア	合計	
本社(東京都渋谷区)	全社共通	本社機能	34,600	63,021	22,936	120,558	32

(注) 1 上記の他、土地(神奈川県綾瀬市)17,306千円(243.90㎡)を有しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 従業員数の()は、臨時従業員数を外数で記載しております。

4 上記の他、主要な設備のうち賃借している設備の内容は、次のとおりであります。

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間賃借料(千円)
本社(東京都渋谷区)	全社共通	本社建物	459,740

(2) 国内子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
				建物	工具、 器具及 び備品	ソフトウ エア	合計	
(株)ecbeing	本社 (東京都渋谷区)	ECソリューション 事業	販売業務	2,317	40,128	246,713	289,158	222 (37)
(株)ecbeing	関西支社 (大阪府大阪 市中央区)	ECソリューション 事業	販売業務	1,530	562	-	2,092	15 (-)
(株)ソフトクリエイト	本社 (東京都渋谷区)	システムインテグ レーション事業 物品販売事業	販売業務	-	5,546	20,331	25,877	221 (19)
(株)ソフトクリエイト	データセン ター (東京都三鷹 市)	システムインテグ レーション事業	販売業務	684	25,636	-	26,320	12 (-)
(株)エイトレッド	本社 (東京都渋谷区)	システムインテグ レーション事業	販売業務	90,267	6,904	228,114	325,285	55 (8)
(株)エートウジエイ	本社 (東京都港区)	ECソリューション 事業	販売業務	668	5,154	2,509	-	41 (1)

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 2 従業員数の()は、臨時従業員数を外数で記載しております。
 3 上記の他、主要な設備のうち賃借している設備の内容は、次のとおりであります。

会社名	事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間賃借料 (千円)
(株)エイトレッド	本社 (東京都渋谷区)	システムインテグレーション事業	本社建物	40,725
(株)エートウジエイ	本社 (東京都港区)	ECソリューション事業	本社建物	16,940

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額(千円)		資金調 達方法	着手年 月	完了予 定年月	完成後 の増加 能力
				総額	既支 払額				
(株)エイト レッド	本社 (東京都渋谷 区)	システムイン テグレーション事業	ソフトウェアX -point、 AgileWo rks、ATL ED Wor k Platf ormの機能強 化及び新規機能 の開発	200,000	-	自己資 金	2019年 4月	2020年 3月	(注) 2
				200,000	-	自己資 金	2020年 4月	2021年 3月	(注) 2
				200,000	-	自己資 金	2021年 4月	2022年 3月	(注) 2

- (注) 1. 上記の金額には消費税は含まれておりません。
 2. 既存ソフトウェア(X-point、AgileWorks、ATLED Work Platform)のサービス機能強化を図ることを目的としておりますが、完成度の増加能力につきましては、合理的な算出が困難なため、記載しておりません。

- (2) 重要な設備の除去等
該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	51,000,000
計	51,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年6月20日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,775,139	13,775,139	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	13,775,139	13,775,139	-	-

(注) 「提出日現在の発行数」には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

2012年11月30日臨時株主総会決議

	事業年度末現在 (2019年3月31日)	提出日の前月末現在 (2019年5月31日)
新株予約権の数	1,283個(注)2	1,283個(注)2
新株予約権のうち自己新株予約権の数	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数	315.900株(注)2	315.900株(注)2
新株予約権の行使時の払込金額	414円(注)4	同左
新株予約権の行使期間	自 2015年12月12日 至 2019年12月11日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 414円 資本組入額 207円	同左
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権の割当を受けた者(以下、新株予約権者という。)は、新株予約権の行使時において、当社または当社の子会社の取締役、監査役、執行役員もしくは従業員の地位にあることを要す。ただし、取締役または監査役が任期満了により退任した場合、または執行役員もしくは従業員が定年により退職した場合にはこの限りではない。また、当社取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。</p> <p>新株予約権者が死亡した場合は、その相続人が新株予約権を相続することができる。</p> <p>その他の条件については、本総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	組織再編に際して定める契約書または計画書等に以下定める株式会社の新株予約権を交付する旨を定めた場合には、当該組織再編の比率に応じて株式会社の新株予約権を交付するものとする。	同左

(注)1 2012年11月30日開催の臨時株主総会において、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、新株予約権の付与(ストック・オプション)に関する決議を行い、上限を4,500個とする旨決議され、2012年11月30日の取締役会決議に基づき、2012年12月11日に新株予約権4,500個を付与しております。

- 2 新株予約権 1 個当たりの目的となる株式数は、100株とする。
 ただし、当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は本件新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的たる株式の数について行われ、調整により生じる 1 株未満の端数については、これを切り捨てる。
- $$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$
- 3 提出日の前月末現在において、付与した新株予約権4,500個のうち2,409個については新株予約権が行使されております。また、808個については退職等により失権しております。
- 4 新株予約権発行後、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる 1 円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社が時価を下回る価額で、新株式の発行または自己株式の処分を行う場合（新株予約権の行使により新株を発行する場合は除く。）は、次の算式により調整されるものとし、調整により生じる 1 円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行（処分）株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行（処分）株式数}}$$

- 5 2013年 7 月 1 日付で株式分割（1：3）を行っており、各数値を調整しております。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

記載事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】
記載事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2013年7月1日 (注)2	9,118,626	13,677,939	-	848,853	-	879,094
2013年7月1日～ 2014年3月31日 (注)1	97,200	13,775,139	5,248	854,101	5,248	884,343
2014年4月1日～ 2015年3月31日	-	13,775,139	-	854,101	-	884,343
2015年4月1日～ 2016年3月31日	-	13,775,139	-	854,101	-	884,343
2016年4月1日～ 2017年3月31日	-	13,775,139	-	854,101	-	884,343
2017年4月1日～ 2018年3月31日	-	13,775,139	-	854,101	-	884,343
2018年4月1日～ 2019年3月31日	-	13,775,139	-	854,101	-	884,343

(注)1 資本金及び資本準備金の増加は、新株予約権の行使によるものであります。

2 株式分割(1:3)によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(名)	-	17	21	33	66	7	6,386	6,530	-
所有株式数 (単元)	-	12,386	1,007	49,961	19,454	20	54,903	137,731	2,039
所有株式数の割 合(%)	-	8.99	0.73	36.27	14.12	0.01	39.86	100.00	-

(注)1 自己株式651,361株は、「個人その他」に6,513単元及び「単元未満株式の状況」に61株含まれております。

2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、15単元含まれております。

(6)【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
有限会社ティーオーシステム	東京都渋谷区渋谷2-15-1	3,483,970	26.55
日本ユニシス株式会社	東京都江東区豊洲1-1-1	654,000	4.98
株式会社オービックビジネスコンサルタント	東京都新宿区西新宿6-8-1	645,900	4.92
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON , MA 02210 U.S.A 東京都千代田区丸の内2-7-1	599,400	4.57
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業 部)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. 東京都港区港南2-15-1	479,500	3.65
林 宗治	東京都港区	410,214	3.13
林 雅也	東京都目黒区	410,165	3.13
林 勝	東京都渋谷区	410,160	3.13
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託 口)	東京都港区浜松町2-11-3	323,300	2.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	317,300	2.42
計	-	7,733,909	58.93

(注) 1 発行済株式総数(自己株式を除く)に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を切捨てしております。

2 (1)上記日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式数323,300株は信託業務に係る株式であります。

(2)上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数317,300株は信託業務に係る株式であります。

3 2019年4月4日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、FMR LLCが2019年3月29日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として議決権行使基準日現在における実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

大量保有者	FMR LLC
住所	245 Summer Street, Boston, Massachusetts 02210, USA
保有株券等の数	株式 1,307,100株
株券等保有割合	9.49%

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 651,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,121,800	131,218	-
単元未満株式	普通株式 2,039	-	-
発行済株式総数	13,775,139	-	-
総株主の議決権	-	131,218	-

(注)1 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式61株が含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,500株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数18個が含まれております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
(自己保有株式) 株式会社ソフトクリエイト ホールディングス	東京都渋谷区渋谷2-15-1	651,300	-	651,300	4.73
計	-	651,300	-	651,300	4.73

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2018年4月2日)での決議状況 (取得期間 2018年4月2日~2018年5月31日)	100,000	170,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	90,700	146,632
残存決議株式の総数及び価額の総額	9,300	23,367
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	9.3	13.7
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	9.3	13.7

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2018年5月31日)での決議状況 (取得期間 2018年6月1日~2018年7月31日)	100,000	173,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	40,500	68,629
残存決議株式の総数及び価額の総額	59,500	104,371
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	59.5	60.3
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	59.5	60.3

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2018年8月22日)での決議状況 (取得期間2018年8月23日~2018年10月31日)	100,000	173,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	96,700	162,455
残存決議株式の総数及び価額の総額	3,300	10,544
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	3.3	6.1
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	3.3	6.1

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2018年11月13日)での決議状況 (取得期間 2018年11月13日~2019年1月31日)	100,000	180,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	99,900	170,318
残存決議株式の総数及び価額の総額	100	9,681
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	0.1	5.4
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	0.1	5.4

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2019年5月15日)での決議状況 (取得期間 2019年5月16日~2019年5月31日)	100,000	150,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	-	-
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	17,400	25,542
提出日現在の未行使割合(%)	82.6	83.0

(注) 1 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの自己株式の取得数は含めておりません。

2 取得期間は約定ベースで、取得自己株式は受渡ベースで記載しております。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号に該当する取得

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	2	3
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(新株予約権の権利行使)	77,100	113,177	-	-
保有自己株式数	651,361	-	-	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの自己株式の取得、単元未満株式の買取り及び新株予約権の行使による株式数及び価額の総額は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、経営基盤の強化、財務体質の強化及び将来の事業拡大のために内部留保の充実を図るとともに、株主への利益配分を重要な経営課題の一つとして位置づけ、業績に応じた配当を継続的に行うため、連結配当性向約30%の配当を年2回行うことを基本方針としております。

当事業年度の利益配当につきましては、上記方針に基づき、1株当たり10円とし、中間配当金10円と合わせて年20円としております。

内部留保金の使途につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、市場ニーズに応える技術・研究開発体制を強化し、市場競争力を高めるための事業戦略の展開を図るために有効な投資をする所存であります。

なお、当社は剰余金の配当等の決定機関を取締役会とし、中間配当及びその他剰余金の配当を行うことができる旨を定款に定めております。

また、基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、次のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当金(円)
2018年11月12日 取締役会	132,649	10.00
2019年5月14日 取締役会	131,237	10.00

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレートガバナンスに対する基本的な考え方

当社は、継続的に企業価値の向上を図ることを通して、経済・社会の健全な発展に貢献することが、株主の皆様やお客様をはじめとする全てのステークホルダーのご期待に応えるものと認識しております。

これらを実現させるため、経営の健全性、透明性、効率性をコーポレート・ガバナンスの継続的強化を経営上の重要課題として認識しております。そのために、独立役員要件を満たす社外取締役・社外監査役を複数選任し、経営監督機能を強化するとともに、執行役員制度の導入等による意思決定や業務執行の迅速化・効率化を図るなど、実効性のあるコーポレート・ガバナンス体制の構築に努めております。

企業統治の体制

イ．企業統治の体制の概要

取締役会は、当社の経営監督機関であり、業務執行機能の経営監督を行っております。

取締役会は、取締役6名（うち、社外取締役2名）及び監査役3名（うち、社外監査役2名）で構成され、月1回の定例取締役会開催に加えて、必要に応じて臨時取締役会を適宜開催し、経営の基本方針、法令で定められた事項、経営に関する重要な事項の決定や判断が、効率的かつ慎重に行われております。また、原則として月1回開催する幹部会議において、経営課題の共有化を図り、効果的な議論を行った上で、全社的に意思決定が必要な事項を取締役に付議することにより、経営の効率化を図っております。

監査役会は、監査機能を担っております。監査役は取締役会等の経営執行における重要な会議に出席し、取締役及び執行機能の監査を行っております。

ロ．企業統治の体制を採用する理由

当社は、企業価値の向上を目指した経営の透明性の確保、コンプライアンス体制の整備及び情報開示の推進などを通して、コーポレート・ガバナンス機能の強化を図っております。また、株主及び各ステークホルダーの利益を最大限に尊重するという責務を果たすためには、経営の迅速化を図ることが重要であると認識しております。今後一層、経営上の組織体制や仕組みを整備し、必要な施策を講じることにより、コーポレート・ガバナンス機能をさらに強化していくことが経営の最重要課題の一つであると位置づけております。

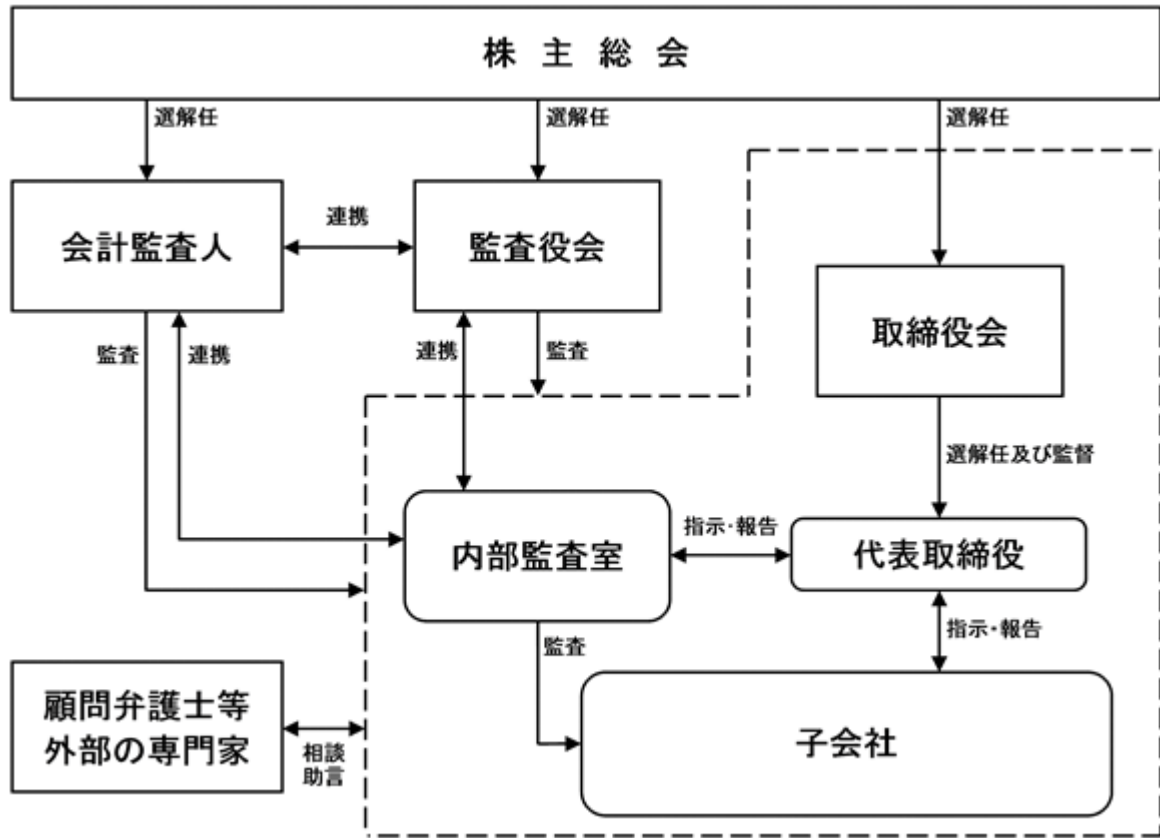
このような企業統治を実現するため、経営監視機能が有効に機能する体制として、上記の企業統治の体制を採用しております。

ハ．その他の企業統治に関する事項

・内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムは、株主の皆様やお得意様をはじめ、取引先、地域社会、社員等の各ステークホルダーに対する企業価値の向上を経営上の基本方針とし、取締役並びに従業員が法令・定款等を遵守することの徹底を図るとともに、リスク管理体制の強化にも取り組むなど、内部統制システムの充実に努めております。また、財務報告に係る内部統制システムについては、内部統制担当部門が、子会社を含める当社グループ全体にわたり業務手続きの評価・整備を行っております。

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は下図のとおりであります。 (2019年6月20日現在)



・リスク管理体制の整備の状況

当社は、リスク管理を経営上の重要な活動と認識し、各種のリスクに対応すべくリスク管理規程に基づき、リスク管理体制を整備しております。当社グループをめぐる様々なリスクについては、各部門の管理責任者をリスク管理活動にあたらせ、重要事項は速やかに報告させる体制をとっております。経営上の重要な事項が発生した場合には、直ちに取締役会において当該事項に関する報告、審議、決定を行うこととし、リスクを未然あるいは最小限に防ぐよう努めております。

また、法的な問題につきましては、顧問契約先の弁護士事務所から必要に応じて助言と指導を受けられる環境を整えております。

・子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は、子会社の業務の適正を確保するため、子会社に当社より取締役・監査役を派遣しております。また、当社の内部監査部門による子会社への内部監査を実施し、その結果を代表取締役に報告しております。

・責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

(2) 【 役員の状況】

役員一覧

男性9名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長	林 勝	1945年5月 25日生	1971年3月 白坂産業株式会社(現当社)入社 1971年4月 当社取締役 1982年4月 当社代表取締役社長 2006年5月 当社代表取締役社長兼CEO 2006年10月 当社代表取締役会長兼CEO 2008年5月 当社代表取締役会長 2012年6月 当社代表取締役会長執行役員 2012年10月 株式会社e c b e i n g代表取締役会長執行役員 (現任) 株式会社ソフトクリエイイト取締役 2013年1月 当社代表取締役会長執行役員 兼経営企画本部長 2013年5月 当社代表取締役会長(現任) 2014年4月 株式会社ソフトクリエイイト取締役会長執行役員(現 任) 2018年4月 株式会社エートウジェイ取締役(現任) 2018年6月 全農ECソリューションズ株式会社監査役(現任)	(注)5	410,160
代表取締役 社長	林 宗治	1974年8月 23日生	2000年6月 株式会社ソフトクリエイイト(現当社)取締役 2003年6月 当社常務取締役 2005年5月 当社専務取締役 2006年5月 当社代表取締役専務兼COO 兼ネットワーク事業部長 兼第一営業事業部長 2006年10月 当社代表取締役社長兼COO 2007年1月 当社代表取締役社長兼COO 兼X - p o i n t事業部長 2007年4月 株式会社エイトレッド代表取締役社長昭 2008年5月 当社代表取締役社長 2010年4月 当社代表取締役社長 兼EC事業推進本部長 2011年3月 当社代表取締役社長 兼EC事業戦略本部長 2012年4月 当社代表取締役社長 兼SIカンパニー代表 2012年6月 当社代表取締役社長執行役員 兼SIカンパニー代表 2012年10月 当社代表取締役社長執行役員 株式会社ソフトクリエイイト代表取締役社長執行役員 2013年5月 当社代表取締役社長(現任) 2014年4月 株式会社ソフトクリエイイト代表取締役社長執行役員 兼技術本部長 2015年4月 株式会社ソフトクリエイイト代表取締役社長執行役員 兼マーケティング本部長(現任) 2015年8月 株式会社エイトレッド取締役会長(現任)	(注)5	410,214

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 副社長	林 雅也	1977年10月 25日生	2000年4月 株式会社ソフトクリエイト(現当社)入社 2004年9月 有限会社ティーオーシステム代表取締役社長(現任) 2005年6月 当社取締役 2006年5月 当社取締役兼プロダクト事業部長 2006年10月 当社取締役兼EC事業部長 2007年4月 当社専務取締役兼EC事業本部長 2007年7月 当社取締役専務執行役員兼EC事業本部長 2008年5月 当社取締役常務執行役員兼EC事業部長兼EC戦略室長 2009年4月 当社取締役常務執行役員兼EC事業本部長 2011年3月 当社取締役専務執行役員兼EC事業本部長 2011年5月 当社取締役専務執行役員兼EC事業本部長兼ECサービス推進室長 2012年4月 当社取締役副社長執行役員兼ECカンパニー代表 2012年10月 当社取締役副社長執行役員 株式会社e c b e i n g代表取締役社長執行役員(現任) 2013年5月 当社取締役 2015年6月 当社代表取締役副社長(現任) 2018年4月 株式会社エートゥージェイ取締役(非常勤・現任)	(注)5	410,165
取締役 専務執行役員	中桐 雅宏	1963年5月 1日生	1992年4月 株式会社ソフトクリエイト(現当社)入社 2004年6月 当社取締役 2006年5月 当社取締役兼第二営業事業部長 2006年10月 当社取締役兼営業本部長 2007年4月 当社常務取締役兼営業本部長 2007年7月 当社取締役常務執行役員兼営業本部長 2008年5月 当社取締役専務執行役員兼営業本部長 2012年4月 当社取締役専務執行役員兼S Iカンパニー営業本部長兼営業本部第1営業部長 2012年10月 当社取締役専務執行役員 株式会社ソフトクリエイト取締役専務執行役員営業本部長 2014年4月 株式会社ソフトクリエイト取締役副社長執行役員営業本部長 2015年6月 当社取締役 2016年10月 当社取締役専務執行役員経営管理担当 2017年3月 株式会社アクロホールディング社外取締役(現任) 2018年4月 当社取締役専務執行役員経営管理本部長兼経理部長(現任)	(注)5	36,900
取締役	阿部 新生	1946年2月 21日生	1994年6月 株式会社日本興業銀行(現株式会社みずほ銀行)上海支店長 1996年6月 セントラル硝子株式会社取締役 2000年6月 同社常務取締役 2007年6月 昭和電線ホールディングス株式会社社外監査役 2009年6月 株式会社ソフトクリエイト(現当社)社外取締役 2016年6月 当社顧問 2015年6月 当社常勤監査役 2016年6月 当社社外取締役(現任)	(注)5	3,000
取締役	安田 洋史	1953年7月 14日生	1979年10月 株式会社東芝入社 半導体国際部長、企業開発担当部長、提携戦略部長等を歴任 2009年6月 東芝マイクロエレクトロニクス株式会社常勤監査役 2010年4月 青山学院大学経営学部兼大学院経営学研究科教授(現任) 2017年4月 同大学就職部長(現任) 2018年6月 当社社外取締役(現任)	(注)5	1,000
常勤監査役	太田 晴彦	1959年4月 28日生	2010年8月 株式会社ソフトクリエイト入社 2018年4月 当社経営管理本部法務室長(部長)	(注)6	2,100

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役	山本 勲	1943年3月 7日生	1965年4月 住友商事株式会社入社 1988年6月 同社投資事業本部国内事業部長 1994年6月 同社監査役 2003年6月 同社顧問 住商情報システム株式会社(現SCSK株式会社) 監査役 住商リース株式会社(現三井住友ファイナンス& リース株式会社)監査役 2008年6月 株式会社ソフトクリエイト(現当社)社外監査役 2014年6月 当社社外監査役(現任)	(注)7	-
監査役	鎌田 憲男	1948年6月 15日生	1967年4月 東京国税庁入庁 1998年7月 税務大学校教育第二教授 2004年7月 東京国税局調査部統括国税調査官 2007年7月 川崎西税務署長 2008年8月 税理士(現任) 2013年12月 社会福祉法人福田会監事(現任) 2016年6月 当社社外監査役(現任)	(注)8	-
計					1,273,539

- (注) 1 代表取締役社長林宗治は、代表取締役会長林勝の長男であります。
- 2 取締役林雅也は、代表取締役会長林勝の二男であります。
- 3 取締役阿部新生及び安田洋史は、社外取締役であります。
- 4 監査役山本勲及び鎌田憲男は、社外監査役であります。
- 5 2019年3月期に係る定時株主総会の終結の時から1年以内に終了する事業年度に係る定時株主総会の終結のときまでであります。
- 6 2019年3月期に係る定時株主総会の終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに係る定時株主総会の終結のときまでであります。
- 7 2018年3月期に係る定時株主総会の終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに係る定時株主総会の終結のときまでであります。
- 8 2016年3月期に係る定時株主総会の終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに係る定時株主総会の終結のときまでであります。
- 9 当社は、取締役の経営責任と執行役員の業務執行責任を明確にすると同時に、権限委譲による業務執行に係る意思決定の迅速化を図るため、執行役員制度を導入しております。
- 執行役員は、取締役会で業務執行に専念する経営幹部として選任され、取締役会で決定された経営方針及び経営戦略に従い、迅速かつ効率的な業務執行を遂行いたします。
- 執行役員3名は、次のとおりであります。

氏名	役職名
秋場 洋	常務執行役員 人事統括部長
吉川 智雄	執行役員
見城 壮彦	執行役員

社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

社外取締役である阿部新生氏には、経営者と監査役としての豊富な経験を有しており、それらの幅広い見識と豊富な経験をもとに、独立した立場から当社の経営を監督していただいております。

社外取締役である安田洋史氏には、株式会社東芝におけるアライアンス・M & Aの実務などの経営戦略全般の実務経験や、青山学院大学の教授としての幅広い見識と高度な専門知識をもとに、独立した立場から当社の経営を監督していただいております。

社外監査役である山本勲氏には、住友商事株式会社等における長年にわたる監査役としての豊富な経験及び高い見識を活かした、業務執行全般にわたる助言を期待しております。

社外監査役である鎌田憲男氏には、国税庁職員及び税理士としての豊富な経験を活かした、及び高い見識を活かした、業務執行全般にわたる助言を期待しております。

なお、当該社外取締役及び社外監査役が他の会社等の役員もしくは使用人である、又は役員もしくは使用人であった場合における当該他の会社等と当社との間に、人的関係、資本的關係又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては経歴や当社グループとの関係を踏まえて、社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。なお、社外取締役及び社外監査役は、東京証券取引所が定める独立役員の要件を満たしており、取締役会の透明性を高め監督機能の強化を図るため、経営の意思決定に多様な視点を取り入れるとともに、中立的かつ独立的な監視機能及び役割を果たしております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会において、監査役監査及び会計監査の結果について報告を受け、また、適宜行われる取締役等との意見交換等を通じて当社グループの現状と課題を把握し、必要に応じて取締役会の意思決定の適正性を確保するための助言・提言をしております。

社外監査役は、常勤監査役と緊密に連携し、経営の監視に必要な情報を共有しております。また、監査役会を通じて、会計監査人及び内部監査室と緊密な連携をとり、業務の適正性の確保に努めております。

(3) 【監査の状況】

内部監査及び監査役監査の状況

代表取締役直轄の組織である内部監査室（1名）が内部監査計画に基づき、子会社を含める当社グループ全体にわたり業務の適正性の確保、業務手続きの効率化・改善等に貢献することを目的として内部監査を実施しております。

内部監査室は、監査役会、内部統制担当部門及び会計監査人との連携のもと、各部署を対象に業務監査を計画的に実施し、監査結果を代表取締役に報告するとともに、被監査部門に対する具体的な助言、勧告を行い、改善状況を確認するなど、実効性の高い内部監査を実施しております。

監査役は、監査役会規程及び監査役監査基準の定めるところに従い、必要とする情報収集を取締役及び使用人から行っており、その監査役は監査役会において他の監査役に報告を行っております。また、監査役会は、取締役、会計監査人、内部監査室及び内部統制担当部門と適宜情報交換を行うことで相互の連携を図り、監査役監査の実効性を確保しております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

（注）新日本有限責任監査法人は、2018年7月1日付をもって、名称をEY新日本有限責任監査法人に変更しております。

b. 業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 日高 真理子

指定有限責任社員 業務執行社員 中井 清 二

c. 監査業務に係る補助者の構成

会計監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士4名、その他15名となります。

d. 監査法人の選定方針と理由

当社は、会計監査人の選定及び評価に際しては、当社の広範な業務内容に対応して効率的な監査業務を実施することができる一定の規模と世界的なネットワークを持つこと、審査体制が整備されていること、監査日数、監査期間及び具体的な監査実施要領並びに監査費用が合理的かつ妥当であること、さらに監査実績などにより総合的に判断いたします。また、日本公認会計士協会の定める「独立性に関する指針」に基づき独立性を有することを確認するとともに、必要な専門性を有することについて検証し、確認いたします。

e. 監査等委員会による監査法人の評価

当社の監査等委員会は、監査法人に対して評価を行っており、同法人による会計監査は、従前から適正に行われていることを確認しております。

また、監査等委員会は会計監査人の再任に関する確認決議をしており、その際には日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」に基づき、総合的に評価しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	31,000	-	37,900	-
連結子会社	10,000	-	12,000	1,500
計	41,000	-	49,900	1,500

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬(a.を除く)

該当事項はありません。

c. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、取締役、社内関係部署及び会計監査人から必要な資料を入手し報告を受けるほか、前期の監査計画・監査の遂行状況、当該期の報酬見積りの相当性等を確認した結果、会計監査人の報酬等について、監査品質を維持向上していくために合理的な水準であると判断し、同意いたしました。

監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社の子会社は監査法人に対して、「監査人から引受事務幹事会社への書簡」及び「財務諸表等以外の財務諸表に関する調査結果報告書」作成業務についての対価を支払っております。

監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案したうえで決定しております。

(4) 【役員の報酬等】

役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役(社外取締役を除く。)	286,178	83,920	-	-	202,258	3
監査役(社外監査役を除く。)	7,700	6,000	-	-	1,700	1
社外役員	12,000	12,000	-	-	-	4

(注) 1. 上記には2018年6月21日開催の第51回定時株主総会決議に基づき、役員退職慰労金を退任取締役1名に対し4,600千円を支給した額を含んでおります。

2. 上記の報酬の額には、以下の内容が含まれております。

- ・当事業年度における役員退職慰労引当金の繰入額199,358千円

ロ. 役員ごとの連結報酬等の総額等

該当事項はありません。

ハ. 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

ニ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役の報酬は、報酬内規に基づき、職務・貢献度・業績等を勘案し人材委員会で審議し、代表取締役が決定しております。監査役の報酬は、監査役会にて協議し、決定しております。

報酬等の総額が1億以上である者の報酬等の総額

氏名	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)	
		基本報酬	退職慰労金
林 勝	222,883	36,000	186,883

(注) 上記の報酬の額には、以下の内容が含まれております。

- ・当事業年度における役員退職慰労引当金の繰入額186,883千円

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式について、効率的な資金運用を行うためにもっぱら株式の価値の変動又は配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

イ．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、継続的な事業拡大と社会的価値、経済的価値を高めるため、業務提携等の経営戦略の一環として、また、取引先等との良好な関係を構築し、事業の円滑な推進を図るため必要と判断する企業の株式を保有しております。

当社は、保有の意義が薄れたと考えられる政策保有株式については、できる限り速やかに処分・縮減をしていく基本方針のもと、取締役会において、毎期、個別に政策保有の意義を検証し、当社グループの継続的な事業拡大と企業価値の向上に資すると認められない株式がある場合には、株主として相手先企業との必要十分な対話を行います。対話の実施によっても改善が認められない株式については、適時・適切に売却します。

ロ．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	2	9,146
非上場株式以外の株式	-	-

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	-	-

ハ．特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報
該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	-	-	-	-
非上場株式以外の株式	2	43,049	1	4,118

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(千円)	売却損益の 合計額(千円)	評価損益の 合計額(千円)
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	60	1,980	690

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は2018年7月1日付をもって名称をEY新日本有限責任監査法人に変更しております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、適正な決算ができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,195,352	5,862,028
受取手形及び売掛金	2,686,678	3,205,437
電子記録債権	47,657	55,158
有価証券	982,483	125
商品	117,991	252,161
未成業務支出金	121,627	221,046
その他	605,086	523,789
貸倒引当金	1,711	2,465
流動資産合計	9,755,165	10,117,281
固定資産		
有形固定資産		
建物	212,405	218,401
減価償却累計額	68,134	88,333
建物(純額)	144,270	130,067
工具、器具及び備品	443,392	501,950
減価償却累計額	293,416	357,551
工具、器具及び備品(純額)	149,976	144,398
土地	42,355	17,306
有形固定資産合計	336,602	291,772
無形固定資産		
ソフトウェア	511,055	540,822
のれん	-	542,858
その他	2,500	2,500
無形固定資産合計	513,555	1,086,180
投資その他の資産		
投資有価証券	1,241,892	1,352,801
繰延税金資産	389,425	437,964
その他	378,922	449,828
貸倒引当金	5,214	6,907
投資その他の資産合計	3,180,025	4,404,686
固定資産合計	4,030,184	5,782,640
資産合計	13,785,349	15,899,921

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,488,142	1,238,439
未払法人税等	330,702	556,273
賞与引当金	307,018	356,546
その他	1,392,519	1,606,773
流動負債合計	3,518,382	3,758,032
固定負債		
繰延税金負債	66,883	174,677
役員退職慰労引当金	228,008	433,017
退職給付に係る負債	727,165	898,661
資産除去債務	66,653	66,864
固定負債合計	1,088,710	1,573,220
負債合計	4,607,093	5,331,252
純資産の部		
株主資本		
資本金	854,101	854,101
資本剰余金	1,218,781	1,459,593
利益剰余金	6,945,106	7,767,362
自己株式	550,727	985,588
株主資本合計	8,467,262	9,095,469
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	109,716	318,670
退職給付に係る調整累計額	50,502	51,675
その他の包括利益累計額合計	59,214	266,995
新株予約権	27,510	22,113
非支配株主持分	624,269	1,184,090
純資産合計	9,178,256	10,568,668
負債純資産合計	13,785,349	15,899,921

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	15,596,817	19,358,155
売上原価	10,753,374	13,314,649
売上総利益	4,843,442	6,043,505
販売費及び一般管理費	1, 2 3,136,337	1, 2 4,156,151
営業利益	1,707,104	1,887,354
営業外収益		
受取利息	18,484	9,352
受取配当金	27,929	41,687
持分法による投資利益	41,980	25,972
為替差益	12,412	49,010
有価証券売却益	-	35,437
その他	32,342	26,884
営業外収益合計	133,148	188,344
営業外費用		
有価証券売却損	36,026	3,010
貸倒損失	-	22,800
損害補填金	5,288	-
上場関連費用	-	25,657
その他	5,842	13,828
営業外費用合計	47,157	65,295
経常利益	1,793,095	2,010,403
特別利益		
投資有価証券売却益	43,533	33,000
固定資産売却益	3 30,941	3 3,640
新株予約権戻入益	210	-
特別利益合計	74,684	36,640
特別損失		
投資有価証券売却損	37,868	8,658
投資有価証券評価損	-	18,485
固定資産除却損	4 4,366	4 10,225
特別損失合計	42,235	37,369
税金等調整前当期純利益	1,825,545	2,009,675
法人税、住民税及び事業税	655,774	789,625
法人税等調整額	67,982	99,034
法人税等合計	587,792	690,591
当期純利益	1,237,752	1,319,084
非支配株主に帰属する当期純利益	92,521	154,571
親会社株主に帰属する当期純利益	1,145,231	1,164,512

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
当期純利益	1,237,752	1,319,084
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	69,038	208,954
退職給付に係る調整額	120,619	900
その他の包括利益合計	1,189,658	1,208,053
包括利益	1,427,410	1,527,137
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,322,347	1,372,293
非支配株主に係る包括利益	105,063	154,843

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	854,101	1,226,438	6,177,462	123,320	8,134,681
当期変動額					
剰余金の配当			269,981		269,981
親会社株主に帰属する当期純利益			1,145,231		1,145,231
連結子会社の増資による持分の増減		7,656			7,656
連結範囲の変更に伴う利益剰余金の増加			4,874		4,874
自己株式の取得				604,065	604,065
自己株式の処分		112,481		176,659	64,178
自己株式処分差損の振替		112,481	112,481		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	7,656	767,643	427,406	332,580
当期末残高	854,101	1,218,781	6,945,106	550,727	8,467,262

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	40,678	158,579	117,901	37,002	510,643	8,564,425
当期変動額						
剰余金の配当						269,981
親会社株主に帰属する当期純利益						1,145,231
連結子会社の増資による持分の増減						7,656
連結範囲の変更に伴う利益剰余金の増加						4,874
自己株式の取得						604,065
自己株式の処分						64,178
自己株式処分差損の振替						-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	69,038	108,077	177,116	9,492	113,626	281,250
当期変動額合計	69,038	108,077	177,116	9,492	113,626	613,830
当期末残高	109,716	50,502	59,214	27,510	624,269	9,178,256

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	854,101	1,218,781	6,945,106	550,727	8,467,262
当期変動額					
剰余金の配当			266,394		266,394
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,164,512		1,164,512
連結子会社株式の売却 による持分の増減		54,517			54,517
連結子会社の増資によ る持分の増減		186,294			186,294
自己株式の取得				548,038	548,038
自己株式の処分		75,861		113,177	37,316
自己株式処分差損の振 替		75,861	75,861		-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	240,811	822,256	434,861	628,207
当期末残高	854,101	1,459,593	7,767,362	985,588	9,095,469

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持 分	純資産合計
	その他有価証 券評価差額金	退職給付に係 る調整累計額	その他の包括 利益累計額合 計			
当期首残高	109,716	50,502	59,214	27,510	624,269	9,178,256
当期変動額						
剰余金の配当						266,394
親会社株主に帰属する 当期純利益						1,164,512
連結子会社株式の売却 による持分の増減						54,517
連結子会社の増資によ る持分の増減						186,294
自己株式の取得						548,038
自己株式の処分						37,316
自己株式処分差損の振 替						-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	208,954	1,172	207,781	5,397	559,820	762,205
当期変動額合計	208,954	1,172	207,781	5,397	559,820	1,390,412
当期末残高	318,670	51,675	266,995	22,113	1,184,090	10,568,668

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,825,545	2,009,675
減価償却費	344,374	374,528
のれん償却額	-	180,952
貸倒損失	-	22,800
貸倒引当金の増減額(は減少)	71	1,467
賞与引当金の増減額(は減少)	20,961	49,528
工事損失引当金の増減額(は減少)	3,904	3,345
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	156,759	170,198
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	35,868	205,008
受取利息及び受取配当金	46,413	51,040
自己株式取得費用	2,274	2,093
固定資産売却損益(は益)	30,941	3,640
固定資産除却損	4,366	10,225
投資有価証券売却損益(は益)	30,361	56,768
投資有価証券評価損益(は益)	-	18,485
為替差損益(は益)	12,794	49,114
持分法による投資損益(は益)	41,980	25,972
新株予約権戻入益	210	-
売上債権の増減額(は増加)	285,597	426,515
たな卸資産の増減額(は増加)	5,728	195,302
仕入債務の増減額(は減少)	219,073	318,691
未払金の増減額(は減少)	155,132	43,229
その他	8,914	7,542
小計	2,365,971	1,956,950
利息及び配当金の受取額	50,886	54,341
法人税等の支払額	857,787	566,604
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,559,070	1,444,687

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	74,163	77,489
有形固定資産の売却による収入	65,900	28,690
無形固定資産の取得による支出	310,016	322,127
投資有価証券の取得による支出	1,009,727	887,694
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	1,350,556	309,059
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	² 605,652
関係会社株式の取得による支出	100,402	184,600
貸付けによる支出	140,975	177,905
貸付金の回収による収入	3,295	162,822
敷金及び保証金の差入による支出	5,831	54,072
その他	105	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	221,259	1,808,969
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ストックオプションの行使による収入	82,784	38,051
自己株式の取得による支出	604,065	548,038
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	-	100,859
非支配株主からの払込みによる収入	-	672,396
配当金の支払額	268,084	265,355
非支配株主への配当金の支払額	39,133	30,855
財務活動によるキャッシュ・フロー	828,499	32,942
現金及び現金同等物に係る換算差額	23,232	81,541
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	486,079	315,682
現金及び現金同等物の期首残高	5,673,686	6,177,836
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	18,071	-
現金及び現金同等物の期末残高	¹ 6,177,836	¹ 5,862,154

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数5社

連結子会社の名称

株式会社 e c b e i n g

株式会社ソフトクリエイト

株式会社エイトレッド

全農ECソリューションズ株式会社

株式会社エートウジェイ

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用関連会社の数4社

持分法適用関連会社の名称

株式会社アクロホールディングス

株式会社Y 2 S

スリーワンシステムズ株式会社

エクスジェンネットワークス株式会社

3 連結の範囲の変更に関する事項

当社は株式会社エートウジェイの株式を新たに取得したことにより、当連結会計年度より同社を連結の範囲に含めております。

4 持分法の範囲の変更に関する事項

当社はエクスジェンネットワークス株式会社の株式を新たに取得したことにより、当連結会計年度より同社を持分法の適用範囲に含めております。

5 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の決算日と連結決算日は一致しております。

6 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

・時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法によっております。(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

・時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

たな卸資産

a 商品

個別法による原価法によっております。

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

b 未成業務支出金

個別法による原価法によっております。

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

主として、定率法によっております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～15年

工具、器具及び備品 2～20年

無形固定資産

定額法によっております。

なお、市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売収益に基づく償却額と見込販売可能期間（3年）に基づく均等配分額を比較し、いずれか大きい額を計上しております。自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年以内）に基づく定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

a 一般債権

貸倒実績率法によっております。

b 貸倒懸念債権及び破産更生債権等

個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担すべき額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異は、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、効果の発現する期間を合理的に見積り、当該期間（3年）にわたり均等償却しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3カ月以内に満期日又は償還日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資であります。

(7) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
役員報酬	217,827千円	237,349千円
給与手当	1,033,150	1,262,488
賞与及び賞与引当金繰入額	217,124	312,249
役員退職慰労引当金繰入額	31,584	217,833
退職給付費用	144,430	93,840
貸倒引当金繰入額	14	2,447
研究開発費	78,869	83,967

2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
研究開発費	78,869千円	83,967千円

3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
土地	30,941千円	3,640千円
計	30,941	3,640

4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物附属設備	914千円	917千円
工具、器具及び備品	3,452	1,652
ソフトウェア	-	7,655
計	4,366	10,225

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	69,268千円	324,941千円
組替調整額	30,361	23,768
税効果調整前	99,630	301,173
税効果額	30,591	92,219
その他有価証券評価差額金	69,038	208,954
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	91,223千円	65,396千円
組替調整額	82,629	64,097
税効果調整前	173,853	1,298
税効果額	53,233	397
退職給付に係る調整額	120,619	900
その他の包括利益合計	189,658	208,053

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	13,775,139	-	-	13,755,139

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	102,623	430,636	132,600	400,659

(注) 1. 自己株式の増加は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得による増加430,600株、単元未満株式の買取りによる増加36株であります。

2. 自己株式の減少は、新株予約権の行使による減少132,600株であります。

3 新株予約権等に関する事項

ストックオプションとしての新株予約権

新株予約権の当連結会計年度末残高 提出会社 27,510千円

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年5月9日 取締役会	普通株式	136,725	10.00	2017年3月31日	2017年6月7日
2017年11月1日 取締役会	普通株式	133,256	10.00	2017年9月30日	2017年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年5月9日取 締役員	普通株式	利益剰余金	133,744	10.00	2018年3月31日	2018年6月7日

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	13,755,139	-	-	13,775,139

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	400,659	327,802	77,100	651,361

（注）1．自己株式の増加は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得による増加327,800株、単元未満株式の買取りによる増加2株であります。

2．自己株式の減少は、新株予約権の行使による減少77,100株であります。

3 新株予約権等に関する事項

ストックオプションとしての新株予約権

新株予約権の当連結会計年度末残高 提出会社 22,113千円

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2018年5月9日 取締役会	普通株式	133,744	10.00	2018年3月31日	2018年6月7日
2018年11月12日 取締役会	普通株式	132,649	10.00	2018年9月30日	2018年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 （千円）	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
2019年5月14日取 締役員	普通株式	利益剰余金	131,237	10.00	2019年3月31日	2019年6月6日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	5,195,352千円	5,862,028千円
有価証券(MMF)	982,483	125
現金及び現金同等物	6,177,836	5,862,154

株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たに株式会社エートウジェイを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式会社エートウジェイ株式の取得価額と株式会社エートウジェイ取得のための支出(純額)との関係は次の通りであります。

流動資産	278,871千円
固定資産	64,133千円
のれん	723,811千円
流動負債	190,647千円
固定負債	134,980千円
非支配株主持分	3,588千円
エートウジェイ株式の取得価額	737,600千円
エートウジェイ社現金及び現金同等物	131,947千円
エートウジェイ社取得のための支出	605,652千円

(リース取引関係)

重要性がないため記載を省略しております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、主に短期的な預金や高格付の債券等、安全性の高い金融資産で運用し、投機的な運用は行わないこととしております。

また、資金調達については、運転資金、設備資金及び業務・資本提携に伴う所要資金等で、手元資金を上回る資金ニーズが生じた場合、用途、金額、期間、コスト等を総合的に勘案して、調達方法(銀行借入(短期・長期)、社債発行、公募増資)を決定する方針であります。

(2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、「与信管理規程」及び「販売管理規程」に従い、取引先ごとの与信審査及び与信限度額の設定を行っております。また、取引先ごと、案件ごとの期日管理及び残高管理を徹底し、問題債権が発生した場合、迅速に対応できる与信管理体制を整備し運用しております。これらの与信管理は、各営業部門及び経理部門により行われ、また、内部監査室による運用状況の監査が実施されております。なお、営業債権は、そのほとんどが2カ月以内の入金期日であります。

有価証券及び投資有価証券は、主に債券(其他有価証券)及び取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、信用リスク及び市場リスクに晒されております。当該リスクに関しては、「資金運用規程」及び「有価証券取扱規程」に従い、投資対象となる債券は格付の高い債券のみに限定しているため、信用リスクは僅少であります。また、保有する有価証券及び投資有価証券については、経理部門において、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、その後の運用方法を検討しております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1カ月以内の支払期日であります。また、営業債務は、流動性リスクに晒されていますが、当社では、経理部門において、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許資金を十分に確保する方法により対応しております。

なお、上記のリスク管理体制は、当社及び当社連結子会社のリスク管理体制についての記載であります。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

該当事項はありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

前連結会計年度（2018年3月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表計上額 （*）	時価（*）	差額
(1) 現金及び預金	5,195,352	5,195,352	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,686,678	2,686,678	-
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	3,005,146	3,005,146	-
(4) 買掛金	(1,488,142)	(1,488,142)	-
(5) 未払法人税等	(330,702)	(330,702)	-

（*）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

当連結会計年度（2019年3月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表計上額 （*）	時価（*）	差額
(1) 現金及び預金	5,862,028	5,862,028	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,205,437	3,205,437	-
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	2,938,695	2,938,695	-
(4) 買掛金	(1,238,439)	(1,238,439)	-
(5) 未払法人税等	(556,273)	(556,273)	-

（*）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法

（1）現金及び預金、（2）受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（3）有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券及び投資信託は取引金融機関から呈示された価格によっております。

なお、有価証券はその他有価証券として保有しており、これに関する注記事項等は「有価証券関係」注記のとおりであります。

（4）買掛金、（5）未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

なお、デリバティブ取引に関しては、「デリバティブ取引関係」注記のとおり、デリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
非連結子会社及び関連会社株式 非上場株式(1)	355,643	565,130
その他有価証券 非上場株式(1)	38,586	20,101
合計	394,229	585,231

(1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしていません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	5,193,594	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,686,678	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期のあるもの 債券	-	283,757	-	-
合計	7,880,273	283,757	-	-

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	5,862,028	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,205,437	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期のあるもの 債券	-	300,634	-	-
合計	9,067,465	300,634	-	-

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	4,118	2,430	1,688
債券	-	-	-
その他	2,717,153	2,548,217	168,936
小計	2,721,271	2,550,647	170,624
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	-	-	-
債券	283,757	296,224	12,467
その他	118	136	18
小計	283,875	296,361	12,485
合計	3,005,147	2,847,008	158,138

当連結会計年度(2019年3月31日)

種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	4,059	2,430	1,629
債券	300,634	294,024	6,609
その他	2,516,906	2,062,886	454,019
小計	2,821,599	2,359,340	462,258
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	116,970	119,903	2,933
債券	-	-	-
その他	125	138	12
小計	117,095	120,041	2,946
合計	2,938,695	2,479,382	459,312

2 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	1,118,694	13,716	37,868
(3) その他	1,708,039	29,817	36,026
合計	2,826,733	43,533	73,895

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	197,679	-	6,678
(3) その他	2,092,676	35,437	4,990
合計	2,290,356	35,437	11,668

3 保有目的を変更した有価証券
該当事項はありません。

4 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度は、該当事項はありません。

当連結会計年度において有価証券について、18,485千円(その他有価証券の株式18,485千円)減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

また、時価を把握することが極めて困難と認められる株式の減損処理にあたっては、財政状態の悪化により実質価額が著しく低下した場合に、個別に回復可能性を判断し、減損処理の要否を決定しております。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、退職一時金制度及び確定拠出制度を採用しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	744,259千円	727,165千円
勤務費用	115,501	107,798
利息費用	3,417	3,389
数理計算上の差異の発生額	91,223	65,396
退職給付の支払額	44,789	5,088
退職給付債務の期末残高	727,165	898,661

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	727,165千円	898,661千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	727,165	898,661
退職給付に係る負債	727,165	898,661
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	727,165	898,661

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	115,501千円	107,798千円
利息費用	3,417	3,389
臨時に支払った割増退職金	47,585	9,643
数理計算上の差異の費用処理額	82,629	64,097
確定給付制度に係る退職給付費用	249,133	184,930

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
数理計算上の差異	173,853千円	1,298千円
合計	173,853	1,298

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
未認識数理計算上の差異	64,840千円	66,138千円
合計	64,840	66,138

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
割引率	0.5%	0.5%

3 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度23,843千円、当連結会計年度25,627千円であります。

(ストック・オプション等関係)

1 スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
販売費及び一般管理費の株式報酬費用	- 千円	- 千円

2 権利不行使による失効により利益として計上した金額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
新株予約戻入益	210千円	- 千円

3 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

当連結会計年度(2019年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

(1) スtock・オプションの内容

提出会社

決議年月日	2012年11月30日
付与対象者の区分及び人数	当社役員 1名 当社従業員 23名 当社子会社の役員 及び従業員 280名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1	普通株式 1,350,000株
付与日	2012年12月11日
権利確定条件	(注)2
対象勤務期間	-
権利行使期間	2015年12月12日から 2019年12月11日まで

(注)1 株式数に換算して記載しております。なお、2013年7月1日に1株を3株とする株式分割を行っているため、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

2 権利行使条件は次のとおりです。

- (1) 新株予約権の割当を受けた者(以下、新株予約権者という。)は、新株予約権の行使時において、当社または当社の子会社の取締役、監査役、執行役員もしくは従業員の地位にあることを要す。ただし、取締役または監査役が任期満了により退任した場合、または執行役員もしくは従業員が定年により退職した場合にはこの限りではない。また、当社取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。
- (2) 新株予約権者が死亡した場合には、その相続人が新株予約権を相続することができる。
- (3) その他の条件については、本総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。

連結子会社(株)エイトレッド)

決議年月日	2015年9月25日
付与対象者の区分及び人数	同社役員 3名 同社従業員 38名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1	普通株式 300,000株
付与日	2015年10月1日
権利確定条件	(注)2
対象勤務期間	-
権利行使期間	2017年9月26日から 2022年9月25日まで

(注)1 株式数に換算して記載しております。なお、2017年12月17日に普通株式1株につき3株とする株式分割を行っているため、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

2 権利行使条件は次のとおりです。

- (1) 新株予約権者は、権利行使時において、同社の取締役、監査役もしくは従業員の地位にあることを要す。ただし、取締役または監査役が任期満了により退任した場合、または従業員が定年により退職した場合にはこの限りではない。また、同社取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。
- (2) 新株予約権者が死亡した場合は、その相続人が新株予約権を相続することができる。
- (3) その他の条件については、本総会及び取締役会決議に基づき、同社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

Stock・オプションの数

会社名	提出会社	連結子会社 (株)エイトレッド)
決議年月日	2012年11月30日(注)1	2015年9月25日(注)2
権利確定前		
期首(株)	-	
付与(株)	-	-
失効(株)	-	-
権利確定(株)	-	
未確定残(株)	-	-
権利確定後		
期首(株)	393,000	88,200
権利確定(株)	-	-
権利行使(株)	77,100	43,800
失効(株)	-	-
未行使残(株)	315,900	44,400

(注)1 2013年7月1日に1株を3株とする株式分割を行っているため、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

2 2017年12月17日に普通株式1株につき3株とする株式分割を行っているため、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

単価情報

会社名	提出会社	連結子会社 (株)エイトレッド
決議年月日	2012年11月30日(注)1	2015年9月25日(注)2
権利行使価格(円)	414	140
行使時平均株価(円)	1,761	1,247
付与日における公正な 評価単価(円)	70	-

(注)1 2013年7月1日に1株を3株とする株式分割を行っているため、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

2 2017年12月17日に1株を3株とする株式分割を行っているため、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

4 ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

連結子会社(株)エイトレッドが付与したストック・オプションについて、同社は付与日において未公開企業であるため、ストック・オプションの公正な評価単価を見積もる方法に代え、ストック・オプションの単位当たりの本源的価値を見積もる方法によっております。また、単位当たりの本源的価値の算定基礎となる自社の株式の評価方法は、純資産方式及び類似業種比準方式により算出した価格を総合的に勘案して算定した価格を用いております。

5 ストック・オプションの権利確定数の見積方法

将来の失効数の合理的な見積もりは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

6 ストック・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

(1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額 48,029千円

(2) 当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額 47,197千円

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年 3月31日)	当連結会計年度 (2019年 3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	93,402千円	106,550千円
未払事業税否認	24,075	39,690
未払費用 (社会保険料)	13,476	15,684
未払事業所税否認	3,563	3,863
貸倒引当金繰入限度超過額	5,650	6,151
退職給付に係る負債	219,551	268,172
役員退職慰労引当金	69,816	132,589
ソフトウェア償却超過額	26,091	24,523
投資有価証券評価損否認	3,367	9,027
その他	82,203	109,970
繰延税金資産小計	541,199	716,224
評価性引当額	89,509	152,230
繰延税金資産合計	451,690	563,993
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	48,422	140,645
持分法適用関連会社の留保利益	23,140	26,172
その他	57,586	133,887
繰延税金負債合計	129,148	300,705
繰延税金資産の純額	322,542	263,287

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年 3月31日)	当連結会計年度 (2019年 3月31日)
法定実効税率	法定実効税率と税効果	30.6%
(調整)	会計適用後の法人税等の	
交際費等永久に損金に算入されない項目	負担率との間の差異が法	1.8
評価性引当額	定実効税率の100分の 5	3.0
住民税均等割	以下であるため注記を省	0.4
法人税額特別控除	略しております。	3.5
のれん償却額		2.8
その他		0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率		34.4

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社エートウジエイ

事業の内容 オウンドメディア導入支援、コンテンツマーケティング支援
ECサイト構築・導入支援

企業結合を行った主な理由

当社グループは、ネット通販構築市場における国内市場シェア9年連続No.1の実績を誇る主力製品「ecbeing」の販売を主軸として、顧客企業の特性に合わせたカスタマイズやデータセンターでの24時間・365日でのサイト運用・監視を行い、いまでは業種・業界を問わず、1,000社を超える優良企業様に導入していただいております。また、ネット通販構築だけでなく、売上を拡大するための施策となるデジタルマーケティング支援及びネット通販構築サイト運用支援のサービスを提供しております。

一方、エートウジエイは、多様な業種の、デジタルマーケティングに積極的な企業に対して、高いパフォーマンスメディアをクライアント企業と共に創造することを目的に、コンテンツ、サイト構築、運用、その後のパフォーマンスまでをワンストップで提供するオウンドメディア支援、及びコンテンツマーケティング支援事業を展開しております。当社はこれらエートウジエイのもつ幅広い経験および蓄積されたノウハウ等を活用することにより、効率化された付加価値の高いサービスを提供しながら、拡大するEC市場のニーズに幅広く対応することができるものと判断したことから、エートウジエイの株式を取得し、連結子会社化することといたしました。

企業結合日

2018年4月27日

企業結合の法的形式

現金を対価とした株式の取得

結合後企業の名称

変更ありません。

取得した議決権比率

79.3%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2018年7月1日から2019年3月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得に伴い支出した現金	737,600千円
取得原価	737,600千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

株価算定費用等 7,250千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれんの金額

723,811千円

発生原因

今後の事業展開に期待される超過収益力であります。

償却方法及び償却期間

3年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債並びにその主な内訳

流動資産	278,871千円
固定資産	64,133千円
資産合計	343,004千円
流動負債	190,647千円
固定負債	134,980千円
負債合計	325,627千円

7. 企業結合日が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす

影響の概算額及びその算定方法

金額的重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

重要性がないため記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

重要性がないため記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、子会社に製品・サービス別の事業部門を設置し、各事業部門は、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、事業部門を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「ECソリューション事業」、「システムインテグレーション事業」及び「物品販売事業」の3つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「ECソリューション事業」は、ECサイト構築パッケージ「ecbeing」のパッケージソフトの販売、カスタマイズ及びデータセンターでのホスティングサービスの提供に加えて、SEO対策及びプロモーション等の付加価値サービスを提供し、トータル的なECソリューションを提供しております。

「システムインテグレーション事業」は、当社グループが開発した3つのソフトウェアプロダクト(X-point、AgileWorks、L2Blocker)の販売、ネットワーク構築を提供しております。

「物品販売事業」は、パソコン及びサーバー等のIT機器の販売、市販パッケージソフトウェアを販売しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。また、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:千円)

	ECソリューション事業	システムインテグレーション事業	物品販売事業	合計	調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	7,205,466	4,044,918	4,346,433	15,596,817	-	15,596,817
セグメント間の内部 売上高又は振替高	37,307	136,860	207,937	382,105	382,105	-
計	7,242,773	4,181,778	4,554,370	15,978,921	382,105	15,596,817
セグメント利益	1,641,701	950,047	85,956	2,677,705	884,609	1,793,095
セグメント資産	2,368,753	1,227,709	879,383	4,475,845	9,309,503	13,785,349
その他の項目						
減価償却費	149,741	166,023	3,392	319,156	25,217	344,374
持分法適用会社への 投資額	268,886	86,757	-	355,643	-	355,643
のれんの償却額	-	-	-	-	-	-
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	207,260	162,951	652	370,863	14,887	385,752

(注)1 調整額は、次のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 884,609千円は、セグメント間取引 100,717千円、その他調整額 12,673千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 771,217千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額9,309,503千円の主なものは、親会社での余資運用資金(現金及び預金)、短期投資資金(有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)並びに管理部門に係る資産等であります。
 - (3) 減価償却費の調整額25,217千円は、管理部門に係る設備投資に対する償却費等であります。
 - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額14,887千円は、管理部門に係る設備投資であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	ECソリューション事業	システムインテグレーション事業	物品販売事業	合計	調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	8,850,465	5,290,981	5,216,708	19,358,155	-	19,358,155
セグメント間の内部 売上高又は振替高	14,461	181,062	224,678	420,202	420,202	-
計	8,864,926	5,472,044	5,441,386	19,778,358	420,202	19,358,155
セグメント利益	1,617,833	1,556,295	43,003	3,217,133	1,206,729	2,010,403
セグメント資産	3,359,790	1,508,190	1,170,975	6,038,956	9,860,964	15,899,921
その他の項目						
減価償却費	166,442	178,334	2,648	347,424	27,103	374,528
持分法適用会社への 投資額	304,478	260,651	-	565,130	-	565,130
のれんの償却額	180,952	-	-	180,952	-	180,952
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	911,185	156,715	2,856	1,070,756	40,371	1,111,128

(注)1 調整額は、次のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 1,206,729千円は、セグメント間取引 110,699千円、その他調整額 1,340千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,094,689千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額9,860,964千円の主なもの、親会社での余資運用資金（現金及び預金）、短期投資資金（有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）並びに管理部門に係る資産等であります。
- (3) 減価償却費の調整額27,103千円は、管理部門に係る設備投資に対する償却費等であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額40,371千円は、管理部門に係る設備投資であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ECソリューション事業」セグメントにおいて、当連結会計年度より、株式会社エートウジェイの発行済普通株式の79.3%取得による連結子会社化に伴い、のれんが発生しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

	ECソリューション事業	システムインテグレーション事業	物品販売事業	合計
当期償却額	180,952	-	-	180,952
当期末残高	542,858	-	-	542,858

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

重要性がないため記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

重要性がないため記載を省略しております。

（1株当たり情報）

項目	前連結会計年度 （自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）	当連結会計年度 （自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
1株当たり純資産額	637円52銭	713円40銭
1株当たり当期純利益	85円48銭	88円08銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	82円68銭	85円11銭

（注）1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前連結会計年度 （自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）	当連結会計年度 （自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益（千円）	1,145,231	1,164,512
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益（千円）	1,145,231	1,164,512
普通株式の期中平均株式数（株）	13,398,335	13,221,750
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額（千円）	2,075	834
（うち連結子会社の潜在株式による調整額（千円））	（ 2,075）	（ 834）
普通株式増加数（株）	427,145	451,069
（うち新株予約権（株））	（427,145）	（451,069）
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	-	-

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

重要性がないため記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	4,022,286	8,867,565	13,842,288	19,358,155
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (千円)	532,288	1,144,451	1,822,066	2,009,675
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 金額(千円)	381,686	748,271	1,135,632	1,164,512
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	28.63	56.26	85.65	88.08

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	28.63	27.62	29.40	2.43

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,042,130	664,277
有価証券	496,978	-
前払費用	76,343	89,007
未収入金	1,222,956	1,197,113
その他	134,598	29,730
流動資産合計	1,973,006	980,129
固定資産		
有形固定資産		
建物	34,451	34,600
工具、器具及び備品	49,877	63,021
土地	42,355	17,306
有形固定資産合計	126,685	114,928
無形固定資産		
ソフトウェア	27,255	22,936
電話加入権	2,500	2,500
無形固定資産合計	29,755	25,436
投資その他の資産		
投資有価証券	1,196,732	1,377,340
関係会社株式	2,182,888	2,924,613
敷金及び保証金	293,115	339,937
その他	26,730	115,050
投資その他の資産合計	3,699,466	4,756,941
固定資産合計	3,855,907	4,897,306
資産合計	5,828,913	5,877,435

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	1,109,590	1,922,814
未払費用	23,373	44,317
未払法人税等	7,657	33,469
預り金	6,024	6,006
賞与引当金	8,398	13,181
その他	22,330	21,173
流動負債合計	177,375	210,962
固定負債		
繰延税金負債	1,688	28,122
役員退職慰労引当金	147,057	347,916
退職給付引当金	6,074	16,135
固定負債合計	154,821	392,173
負債合計	332,197	603,136
純資産の部		
株主資本		
資本金	854,101	854,101
資本剰余金		
資本準備金	884,343	884,343
資本剰余金合計	884,343	884,343
利益剰余金		
利益準備金	8,605	8,605
その他利益剰余金		
別途積立金	101,000	101,000
繰越利益剰余金	4,095,397	4,218,424
利益剰余金合計	4,205,002	4,328,029
自己株式	550,727	985,588
株主資本	5,392,721	5,080,886
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	76,485	171,299
評価・換算差額等合計	76,485	171,299
新株予約権	27,510	22,113
純資産合計	5,496,716	5,274,299
負債純資産合計	5,828,913	5,877,435

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業収益	1,154,600	1,173,933
営業費用	1,291,031	1,213,024
営業利益	632,568	437,467
営業外収益		
受取利息	1,707	1,012
有価証券利息	11,380	905
受取配当金	18,761	28,212
有価証券売却益	-	17,211
為替差益	5,155	6,239
その他	5,752	2,633
営業外収益合計	42,757	56,213
営業外費用		
有価証券売却損	22,054	2,424
自己株式取得費用	2,274	2,092
貸倒損失	-	22,800
その他	3,013	6,616
営業外費用合計	27,342	33,933
経常利益	647,983	459,747
特別利益		
固定資産売却益	30,941	3,640
投資有価証券売却益	43,533	-
子会社株式売却益	-	98,984
新株予約権戻入益	210	-
特別利益合計	74,684	102,625
特別損失		
投資有価証券売却損	12,152	1,980
その他	736	461
特別損失合計	12,889	2,442
税引前当期純利益	709,779	559,930
法人税、住民税及び事業税	89,592	110,058
法人税等調整額	3,264	15,411
法人税等合計	86,327	94,647
当期純利益	623,451	465,282

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	854,101	884,343	-	884,343	8,605	101,000	3,854,408	3,964,013
当期変動額								
剰余金の配当							269,981	269,981
当期純利益							623,451	623,451
自己株式の取得								
自己株式の処分			112,481	112,481				
自己株式処分差損の振替			112,481	112,481			112,481	112,481
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	240,988	240,988
当期末残高	854,101	884,343	-	884,343	8,605	101,000	4,095,397	4,205,002

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	123,320	5,579,138	62,051	62,051	37,002	5,678,192
当期変動額						
剰余金の配当		269,981				269,981
当期純利益		623,451				623,451
自己株式の取得	604,065	604,065				604,065
自己株式の処分	176,659	64,178				64,178
自己株式処分差損の振替		-				-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			14,433	14,433	9,492	4,941
当期変動額合計	427,406	186,417	14,433	14,433	9,492	181,475
当期末残高	550,727	5,392,721	76,485	76,485	27,510	5,496,716

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							利益剰余金 合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	その他利益剰余金		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		別途積立金	繰越利益剰 余金	
当期首残高	854,101	884,343	-	884,343	8,605	101,000	4,095,397	4,205,002
当期変動額								
剰余金の配当							266,394	266,394
当期純利益							465,282	465,282
自己株式の取得								
自己株式の処分			75,861	75,861				
自己株式処分差損の振替			75,861	75,861			75,861	75,861
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	123,027	123,027
当期末残高	854,101	884,343	-	884,343	8,605	101,000	4,218,424	4,328,029

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合 計	その他有価 証券評価差 額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	550,727	5,392,721	76,485	76,485	27,510	5,496,716
当期変動額						
剰余金の配当		266,394				266,394
当期純利益		465,282				465,282
自己株式の取得	548,038	548,038				548,038
自己株式の処分	113,177	37,316				37,316
自己株式処分差損の振替		-				-
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）			94,813	94,813	5,397	89,416
当期変動額合計	434,861	311,834	94,813	94,813	5,397	222,417
当期末残高	985,588	5,080,886	171,299	171,299	22,113	5,274,299

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

(2) その他有価証券

・時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法によっております。(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

・時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

主として、定率法によっております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～15年
工具、器具及び備品	2～10年

(2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年以内)に基づく定額法によっております。

3 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度の負担すべき額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により、発生翌事業年度から費用処理することとしております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」9,454千円は、「固定負債」の「繰延税金負債」11,143千円と相殺して、「固定負債」の「繰延税金負債」1,688千円として表示しており変更前と比べて総資産が9,454千円減少しております。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(修正再表示)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務(区分掲記載されたものを除く)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	165,792千円	203,216千円
長期金銭債権	-	77,400
短期金銭債務	27,589	39,460

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業取引による取引高		
営業収益	1,549,600千円	1,739,933千円
営業費用	164,242	180,642

2 営業費用のうち、主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
役員報酬	104,421千円	101,920千円
給与手当	203,190	259,800
賞与及び賞与引当金繰入額	18,591	44,758
役員退職慰労引当金繰入額	12,800	199,358
退職給付費用	17,599	15,175
地代家賃	90,135	109,151
減価償却費	31,124	33,522
業務委託費	203,389	220,694

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(2018年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	81,875	4,507,710	4,425,835
関連会社株式	-	-	-
計	81,875	4,507,710	4,425,835

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額
子会社株式	1,920,773
関連会社株式	180,240
計	2,101,013

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

当事業年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	80,000	4,619,520	4,539,520
関連会社株式	-	-	-
計	80,000	4,619,520	4,539,520

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額
子会社株式	2,664,373
関連会社株式	180,240
計	2,844,613

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年 3月31日)	当事業年度 (2019年 3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	2,571千円	4,036千円
未払事業税否認	1,947	5,741
未払費用 (社会保険料)	559	584
未払事業所税否認	550	535
一括償却資産超過額	3,306	6,688
貸倒引当金繰入限度超過額	3,529	3,529
退職給付引当金	1,860	4,940
役員退職慰労引当金	45,029	106,531
投資有価証券評価損否認	2,448	2,448
会社分割による子会社株式調整額	74,802	74,952
その他	38,534	40,561
繰延税金資産小計	175,140	250,551
評価性引当額	143,073	203,073
繰延税金資産合計	32,067	47,478
繰延税金負債		
其他有価証券評価差額金	33,756	75,600
繰延税金負債合計	33,756	75,600
繰延税金負債の純額	1,688	28,122

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年 3月31日)	当事業年度 (2019年 3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1	1.3
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	20.4	25.1
評価性引当額	0.1	10.7
住民税均等割	0.1	0.2
その他	0.4	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	12.2	16.9

(企業結合等関係)

連結財務諸表「注記事項 (企業結合等関係) 」に同一の記載をしているため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	65,284	4,591	-	4,443	69,875	35,275
	工具、器具及び備品	123,251	35,875	703	22,270	158,423	95,402
	土地	42,355	-	25,049	-	17,306	-
	計	230,891	40,467	-	26,713	245,605	-
無形固定資産	ソフトウェア	133,540	2,490	-	6,809	136,030	113,094
	電話加入権	2,500	-	-	-	2,500	-
	計	136,040	2,490	-	6,809	138,530	113,094

(注) 1. 当期首残高及び当期末残高については、「取得価額」で記載しております。

2. 当期増減額のうち主な内訳は、次のとおりであります。

(増加) 建物	増設工事	4,591千円
工具、器具及び備品	デスク	5,792千円
	会議予約システム	5,806千円
ソフトウェア	ワークフローシステム	2,490千円
(減少) 土地	遊休資産の売却	25,049千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
賞与引当金	8,398	13,181	8,398	13,181
役員退職慰労引当金	147,057	204,208	3,350	347,916

(注) 引当金の明細の内、役員退職慰労引当金の当期増加額には子会社からの移管残高4,850千円が含まれております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで																								
定時株主総会	決算期の翌日から3カ月以内																								
基準日	3月31日																								
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日																								
1単元の株式数	100株																								
単元未満株式の買取り・売渡し																									
取扱場所	(特別口座に記録された単元未満株式に関する取扱い) 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 東京証券代行株式会社 (特別口座以外の振替口座に記録された単元未満に関する取扱い) 振替口座を開設した口座管理機関(証券会社等)																								
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社																								
取次所	-																								
買取手数料	無料																								
公告掲載方法	電子公告により行う。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.softcreate.co.jp																								
株主に対する特典	<p>毎年3月末日及び9月末日の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有の株主に対し、下記のとおりクオカードを贈呈いたします。</p> <p>1 通常株主優待</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>保有株式数</th> <th>優待内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100株以上 300株未満</td> <td>年間1,000円分</td> </tr> <tr> <td>300株以上 900株未満</td> <td>年間2,000円分</td> </tr> <tr> <td>900株以上 1,500株未満</td> <td>年間3,000円分</td> </tr> <tr> <td>1,500株以上 2,100株未満</td> <td>年間4,000円分</td> </tr> <tr> <td>2,100株以上 3,000株未満</td> <td>年間5,000円分</td> </tr> <tr> <td>3,000株以上</td> <td>年間6,000円分</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 長期保有優待</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>継続保有株式数</th> <th>長期優待内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>300株以上 900株未満</td> <td>500円分</td> </tr> <tr> <td>900株以上 1,500株未満</td> <td>1,000円分</td> </tr> <tr> <td>1,500株以上 3,000株未満</td> <td>1,500円分</td> </tr> <tr> <td>3,000株以上</td> <td>2,000円分</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 継続保有期間とは、100株以上の株式を取得したことが当社株主名簿に記載された日から各基準日(毎年3月31日)までの継続して保有した期間をいいます。 2 保有継続期間が2年を超える株主様(同一株主番号で3月末日・9月末日それぞれの株主名簿に連続5回以上記載又は記録された株主様)を対象とします。 3 毎年3月31日現在の株主様に対し、6月頃に発送を予定しております。</p>	保有株式数	優待内容	100株以上 300株未満	年間1,000円分	300株以上 900株未満	年間2,000円分	900株以上 1,500株未満	年間3,000円分	1,500株以上 2,100株未満	年間4,000円分	2,100株以上 3,000株未満	年間5,000円分	3,000株以上	年間6,000円分	継続保有株式数	長期優待内容	300株以上 900株未満	500円分	900株以上 1,500株未満	1,000円分	1,500株以上 3,000株未満	1,500円分	3,000株以上	2,000円分
保有株式数	優待内容																								
100株以上 300株未満	年間1,000円分																								
300株以上 900株未満	年間2,000円分																								
900株以上 1,500株未満	年間3,000円分																								
1,500株以上 2,100株未満	年間4,000円分																								
2,100株以上 3,000株未満	年間5,000円分																								
3,000株以上	年間6,000円分																								
継続保有株式数	長期優待内容																								
300株以上 900株未満	500円分																								
900株以上 1,500株未満	1,000円分																								
1,500株以上 3,000株未満	1,500円分																								
3,000株以上	2,000円分																								

(注) 当会社の単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、以下に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 単元未満株式と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求することができる権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第51期)	自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	2018年6月21日 関東財務局長に提出
(2) 内部統制報告書及び その添付書類	事業年度 (第51期)	自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	2018年6月21日 関東財務局長に提出
(3) 四半期報告書及び確認書	第52期 第1四半期 第52期 第2四半期 第52期 第3四半期	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日 自 2018年7月1日 至 2018年9月30日 自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	2018年8月14日 関東財務局長に提出 2018年11月14日 関東財務局長に提出 2019年2月8日 関東財務局長に提出
(4) 臨時報告書	金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の 開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規 定に基づく臨時報告書であります。		年 月 日 関東財務局長に提出
(5) 自己株券買付状況報告書	報告期間 (自 2018年5月1日 至 2018年5月31日)		2018年6月4日 関東財務局に提出
	報告期間 (自 2018年6月1日 至 2018年6月30日)		2018年7月3日 関東財務局に提出
	報告期間 (自 2018年7月1日 至 2018年7月31日)		2018年8月2日 関東財務局に提出
	報告期間 (自 2018年8月1日 至 2018年8月31日)		2018年9月4日 関東財務局に提出
	報告期間 (自 2018年9月1日 至 2018年9月30日)		2018年10月3日 関東財務局に提出
	報告期間 (自 2018年10月1日 至 2018年10月31日)		2018年11月5日 関東財務局に提出
	報告期間 (自 2018年11月1日 至 2018年11月30日)		2018年12月7日 関東財務局に提出
	報告期間 (自 2018年12月1日 至 2018年12月31日)		2019年1月11日 関東財務局に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月20日

株式会社ソフトクリエイトホールディングス

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	日 高	真理子
--------------------	-------	-----	-----

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中 井	清 二
--------------------	-------	-----	-----

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ソフトクリエイトホールディングスの2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ソフトクリエイトホールディングス及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ソフトクリエイイトホールディングスの2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ソフトクリエイイトホールディングスが2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

2 X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月20日

株式会社ソフトクリエイイトホールディングス

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 日 高 真理子
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 中 井 清 二
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ソフトクリエイイトホールディングスの2018年4月1日から2019年3月31日までの第52期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ソフトクリエイイトホールディングスの2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
- 2 X B R L データは監査の対象には含まれていません。